

## ミューズ NO.20 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行:2008年1月

編集:山辺昌彦、山根和代、安斎育郎

翻訳:池谷りさ、山根和代

イラスト:戸崎恵理子

事務局所在:東京大空襲・戦災資料センター内 山辺昌彦気付

住所:東京都江東区北砂1-5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

全国および海外の平和博物館、平和資料館などの活動について、お知らせします。

**平和のための博物館国際ネットワーク役員会**  
会:2007年10月27~28日、ローマにて  
代表:Peter van den Dungen

2007年10月27~28日にローマにて平和のための博物館国際ネットワーク(the International Network of Museums for Peace:INMP)の役員会が開催されました。そこではネットワークの運営と第6回平和のための博物館国際会議(2008年10月6~10日京都および広島で開催)について討議しました。

ちょうどその頃ローマで広島・長崎原爆展示会とシンポジウムが開催されて安斎育郎さんと山根和代さんが参加したので、役員会を開くのに都合が良かった次第です。執行委員のJoyce Apselさん(ニューヨーク大学、国際ネットワーク国連代表)、Steve Fryburgさん(デイトン国際平和博物館館長)、Gerard Loessbroekさん(オランダに平和博物館を作る会)、Iratxe Momoitioさん(ゲルニカ平和博物館館長)、そして諮問委員の安斎育郎さん(立命館大

学国際平和ミュージアム館長)、Anne C.Kjellingさん(ノーベル研究所)、山根和代さん(平和資料館「草の家」理事)、そして代表のPeter van den Dungenさん、さらにLucetta Sanguinettiさん(イタリア北部に平和博物館を創る会代表、会議場のお世話をして下さった)が参加しました。

会議の内容についてお知らせします。



erico

## 1. 定款について

2006年初めに最初の定款の草案が安齋育郎さんから出されましたが、ほとんどの時間はこの定款に関する論議に費やされました。合意した定款は、国際ネットワークのウェブサイトに掲載する予定であり、2008年の国際会議で開かれる総会に出し、参加者の合意を得る予定です。

それまでは会費制の導入などの諸問題に関する規則案について論議します。

## 2. ロゴについて

ゲルニカにおける第5回平和博物館国際会議において、またその前後に提案されたロゴのデザインは、正式なロゴとして認められていません。ロゴについては国際ネットワークのウェブサイト上で応募し、応募作品の全部、あるいは選ばれたロゴをウェブサイトおよび2008年の国際会議で公開することが決められました。ロゴは最終的に、国際会議総会参加者によって選ばれることになりました。

京都造形芸術大学と東北芸術工科大学は立命館大学国際平和ミュージアムと一緒に国際会議の主催をしますが、その学生は特に応募に参加することが求められています。また学生は2007年の終わりまでに、国際会議のロゴを応募するように求められています。

## 3. 会員

会員制を導入する必要があるということで合意しました。国際ネットワークのウェブサイトに申込書を書き、個人、また関係組織は申し込むことができるようにします。会員の正式な登録受付は、次の国際会議で開始されると予想されます。会員登録の際には、会費の支払いが必要になります。(会費の金額の詳細は、今後決められます。)

## 4. ウェブサイト

現在のウェブサイトについて、(1)最初のページをもっと魅力のあるものにする。(2)ホームページの内容を、数か国語に翻訳する。(3)入会している組織のリストにおいて、平和博物館を優先する。という内容で合意しました。

## 5. 事務局

オランダのハーグ市国際局では、非政府組織が本部を置くことのできる建物を提供しています。そこへ国際ネットワークの本部を置くことにしま

した。このような移動ができるように、ハーグ市では最初の2、3年間事務局に対して物質的な援助をする予定です。

国際ネットワークの代表者は、ハーグ市長に手紙を書き、平和のための博物館国際ネットワークが事務局をハーグ市に移すことに興味があること、また少なくとも移転はハーグ市の実際の援助次第であることを知らせる予定です。

このような移転は国際ネットワークの専門化と発展にとって大変重要なことですが、その移転をさらに援助するために、安齋育郎教授が寛大なことに安齋育郎平和基金から1万ドルの寄付をして下さるという約束をされました。

## 6. 法人組織

平和のための博物館国際ネットワークの法人組織は、オランダで法人組織にするようになるでしょう。現在事務局をイギリスのブラッドフォードからオランダのハーグに移すことを検討しているからです。法人組織化については、ハーグ市当局から忠告や援助があると予想できます。

(文責・山根和代)

\*\*\*\*\*

## 第6回国際平和博物館会議のご案内

「平和創造のための空間としての平和博物館—地球的問題解決のための『ピース・リタラシー』の構築をめざして—」

2008年10月6日～8日 立命館大学国際平和  
ミュージアム

9日 京都造形芸術大学

10日 広島平和記念資料館

ロゴマーク

(京都造形芸術大学・東北芸術工科大学において募集中)

主催 第6回国際平和博物館会議組織委員会

共催 立命館大学国際平和ミュージアム

京都造形芸術大学、広島平和記念資料館、東北芸術工科大学、立命館アジア太平洋大学

後援 日本平和博物館会議 (交渉予定)

協賛 日本万国博覧会記念協会 (予定)

## 報告募集

会議のテーマ（平和創造のための空間としての平和博物館—地球的問題解決のための『ピース・リタラシー』の構築をめざして—）に関する報告（A4・5枚以内）を募集します。報告時間は15分です。報告書は、日本語もしくは英語での作成をお願いします。受付の締め切りは2008年6月末日です。当会議での発表の採否及び発表日程等の詳細については、追って事務局よりご連絡します。

## ポスターセッション（資料展示）

立命館大学国際平和ミュージアム会場では、参加館や建設運動の現状を紹介・展示し、交流するための特別セッション（ポスターセッション）を開設します。必要情報（館名、所在地、設立年、活動内容〈400字以内〉、写真）をご提供下さい。詳細は、3月に開設を予定しますH. P. (<http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/er/wp-museum/index.html>)にてご確認ください。

## 宿泊ホテル

宿泊先は個人でお申し込みください。なお、当会議用として、JTBが一定数のホテルを確保しておりますので、必要な場合は下記までお問い合わせ下さい。

\* JTB西日本 京都支店 担当：小林、小谷、逢坂

京都市 下京区四条通り麩屋町東入ル

TEL 075 (223) 5573

FAX 075 (223) 5581

## ボランティアの募集

この会議を実りあるものにするために、会議の企画・運営に力を発揮していただける方、会議の通訳（日英、日韓、日中等）などに協力していただける方を募集しています。ご協力いただける方は、ご氏名及び協力内容等を事務局 ([6peace-m@st.ritsumeai.ac.jp](mailto:6peace-m@st.ritsumeai.ac.jp))までご連絡ください。

## 展示および分科会 テーマ「平和創造のための空間としての平和博物館」

以下のテーマ(案)にもとづき、分科会等を開催します。

### 1. 各平和博物館の活動紹介（地域別）

2. 平和博物館はイラク戦争をどう伝えたか？
3. 平和博物館と戦争博物館の狭間
4. バーチャル・ミュージアムの到達点と展望
5. 平和博物館の展示技術の最前線
6. 空白地域への平和博物館開設をどう支援できるか？
7. 平和教育における平和博物館の活用
8. 平和博物館と平和研究の結合
9. ポスターセッション（各館資料展示）
10. Art Exhibition（仮）

## 第6回国際平和博物館会議 【趣旨】

世界の誰もが「希望の世紀」として迎えることを願っていた21世紀は、残念ながら、なおさまざまな暴力に満ちた様相を呈しています。核兵器から地雷や小銃に至るまでの武器はもとより、飢餓・貧困・差別・人権抑圧・社会的不公正・環境破壊・劣悪な衛生環境や教育実態など、人間の能力を豊かに開花させることを阻害する数多くの社会的条件が存在しています。私たちは、互いに手を結び合い、知恵を出し合って、これらの問題を解決する方法を探り、国境を越えた全地球規模の共同の努力を払うことが求められています。

これまで私たちはたくさんの戦争や暴力を体験してきました。そうした過去と誠実に向き合い、それを繰り返さないための教訓をしっかりと学び、実践することは、とても大切なことです。個人の体験は時とともに失われがちです。私たちはそれを社会的記憶として世代を越えて伝え、平和を創造するために積極的に役立てることが大切でしょう。平和のための博物館活動は、そのための効果的な方法であり、これからの社会づくりに参加する若い世代を含めて、戦争や暴力の悲惨さ、命の尊さ、平和のかけがえのなさをしっかりと伝えていく責務があります。

平和のための博物館は、また、過去や現在のさまざまな暴力の悲惨な実態を知らせるだけの場であってはなりません。互いに人間性を信じあい、違いを超えて手を結び合い、自己実現を阻害するさまざまな暴力を克服し、人びとが能力を存分に発揮してそれぞれの目標に向かって生き生きと躍動する—そんな社会づくりのためのこころと知恵を共有できる空間でありたいものです。そのためには、平和のための多様な活動にとりくんでいる博物館どうしが経験を交流し、知恵を分かち合い、創造的な方法を編み出し、互いに励ましあってより効果的な活動を展開することが大切です。

この国際平和博物館会議は、1992年以來、イギリス・オーストリア・日本・ベルギー・スペインとはぼ3年おきに会議を開き、実績を積み重ねてきました。1998年に大阪と京都で開催された第3回会議は多くの方がたの支援と参加によって、大きな成果を生み出すことができました。それから10年目の2008年10月、第6回国際会議が再び京都と広島を舞台に開かれる運びとなりました。

私たちが直面している国際紛争や地球環境問題など、人類の死活に関わる重要な問題を解決するために、平和博物館は「ピース・リテラシー」(平和創造のための教養)の涵養と普及にどう貢献できるか—この大切な問題についての知恵を深め、共有するために、ぜひ皆さんの積極的なご支援、ご協力、ご参加を期待いたします。

平和博物館を平和づくりの発信地、集約地、そして、新たな創造の地とするために！

#### プログラム (案)

10月6日(月)〈立命館大学 衣笠キャンパス〉  
オープニング記念講演

分科会

立命館大学国際平和ミュージアム見学

レセプション

10月7日(火)〈立命館大学 衣笠キャンパス〉  
分科会

平和のための博物館国際ネットワーク (INMP) 総会

記念講演

分科会

10月8日(水)〈立命館大学 衣笠キャンパス〉  
記念シンポジウム

INMP 総会

分科会

平和のための博物館市民ネットワーク会議

エクスカージョン (二条城、比叡山延暦寺 予定)

10月9日(木)〈京都造形芸術大学〉

記念講演 (千住博・京都造形芸術大学学長 予定)

日本文化のつどい (狂言・舞踊など/春秋座)

分科会

特別展示会

レセプション

10月10日(金)〈広島平和記念資料館メモリアルホール〉

原爆ドーム、広島平和記念資料館、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展見学

記念講演 (秋葉忠利広島市長予定)

被爆者証言

記念シンポジウム

閉会総会 (第6回国際平和博物館会議宣言)

レセプション

#### 論文集

会議の報告用論文集 (『予稿集』) は、会議当日に配布します。会議の全容を収録・編集した『報告集』を会議終了後に出版します。

#### 言語

会議の公用語は英語と日本語です。両者の間には基本的に同時通訳、部分的に逐次通訳サービスをおこないます。中国語・朝鮮語についても、可能な範囲で通訳の便宜をはかります。また、「平和のための博物館市民ネットワーク」による日本の参加者のための交流会を10月8日(水)午後開催します。

#### 日本の参加者の参加登録

日本の参加者 (日本在住の外国人参加者を含む) の全日程参加登録料は、35,000円です。参加登録、会議で提出されるすべての報告資料、通訳サービス、コーヒー・ブレイク、昼食のサービスを受けることができます。ただし、宿泊代金及び移動費、レセプション及びエクスカージョンに参加される場合は実費負担をお願いします。

なお一日だけ参加する場合の参加登録費は、一般5,000円、学生3,000円程度を予定しています。一日の参加者は、会議報告資料、通訳、コーヒー・ブレイクのサービスをうけることができます。

#### 登録手続き等について

本大会に関心のある方は、2008年3月開設予定のホームページ

(<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/index.html>) にて詳細情報をご確認下さい。

事務局

第6回国際平和博物館会議事務局

〒603-8577

立命館大学国際平和ミュージアム気付

Tel : 075-465-8354 Fax : 075-465-7899

E-mail : [6peace-m@st.ritsumei.ac.jp](mailto:6peace-m@st.ritsumei.ac.jp)

\*\*\*\*\*

## 第7回平和のための博物館・市民ネットワーク 全国交流会の報告

山辺昌彦

2007年12月1日(土)午後1時～6時10分と  
2日(日)午前9時～午後0時30分の日程で、「戦  
争と平和の資料館 ピースあいち」1階で「平和  
のための博物館・市民ネットワーク第7回全国交  
流会」が開催されました。参加者は32名でした。

1日は、まず、会場館「ピースあいち」の館長  
の野間美喜子さんから、歓迎と開会の挨拶があり  
ました。安田和也さん(第五福竜丸展示館)と池  
田恵理子さん(女たちの戦争と平和資料館)が司会  
をし、以下の報告がありました。1日目の参加者  
は30名でした。

山辺昌彦(平和のための博物館・市民ネットワ  
ーク事務局)「2007年における平和のための博物館  
の戦争関係特別展の動向」

南守夫さん(ピースあいち)「1990年代半ば以降の  
戦争関係博物館の動向」

宮原大輔さん(ピースあいち)「戦争と平和の資料館  
ピースあいちの現状と課題」

浅川保さん(山梨平和ミュージアム)「山梨平和ミュ  
ージアム開館の意義」

池田恵理子さん「国際的な連帯活動とアクティ  
ブ・ミュージアム運動」

安田和也さん「第五福竜丸建造60年・還暦船の航  
海から」

山根和代さん(草の家)「国連で開催された平和  
教育シンポジウム、デトロイトの「刀を鋤に平和  
センター&ギャラリー」の訪問について」

1日の午後6時30分～9時に懇親会を、地下鉄  
東山線一社駅近くの「我楽多文庫 一社店」で、  
24名の参加により開催しました。

2日は、宮原大輔さんの司会で以下の報告があ  
りました。2日目の参加者は18名でした。

梶慶一郎さん(東京大空襲・戦災資料センター)  
「ベトナム戦争における枯葉剤被害の写真展、シ  
ンポジウム、モニュメント建設の検討」

安斎育郎さん(立命館大学国際平和ミュージアム)  
「第6回国際平和博物館会議の日本開催の経過、  
イタリア講演旅行記、第14回日本平和博物館会議  
(2007年11月12・13日、立命館)の紹介など」

永野仁さん(わだつみのこえ記念館)「『わだつ  
みのこえ記念館』開館1年の経験」

福島在行さん(平和博物館研究会)「平和博物館研  
究会(京都)の活動紹介」

金子力さん(ピースあいち)「若者と取り組んだ  
2006年(ピースフェスタ春日井)戦争展」

報告に対する討論も活発におこなわれ、加害展  
示のあり様や、平和博物館と戦争博物館との違い  
などが議論され、レジスタンス博物館やホロコー  
スト博物館も平和博物館に入れるべきであるとい  
う意見が出されました。

交流会の最後に、「平和のための博物館・市民  
ネットワーク」の会計・事業報告がありました。  
今後の事業については、平和博物館の共同の案内  
資料を作成することについては、引き続き努力す  
ることを確認しました。「平和のための博物館・  
市民ネットワーク」のニュースのホームページ上  
の公開について、「草の家」での公開が容量の関  
係で無理なってきたので、対策をとることにしま  
した。

事務局は引き続き、「東京大空襲・戦災資料セ  
ンター内山辺昌彦気付」です。

運営委員は池田恵理子・梶慶一郎・安田和也・  
浅川保・宮原大輔の皆さんです。

ニュースは、日本語版20、21号の2回、英語版  
18、19号の2回を発行する予定で、編集委員は山  
根和代・山辺昌彦・安斎育郎さんです。

2008年は、10月6日～10日に第6回国際平和  
博物館会議が開かれます。来年の交流会は、国際  
平和博物館会議期間中の2008年10月8日の午後  
に「立命館大学国際平和ミュージアム」で短時間  
になりますが開催し、夜に懇親会を催す予定です。

2009年の交流会は、東京での開催を予定し、で  
きれば、あわせてシンポジウムの開催を追求しま  
す。2010年の交流会は「山梨平和ミュージアム」  
での開催を予定しています。

4年以上の長期の会費未納者については、もう  
一度請求しても、納入がない場合は整理するこ  
とにしました。また、メーリングリストの参加者  
についても、入会を呼びかけても、入会されない  
方は整理することにしました。日本語ニュースの  
発送先を見直し、より多くの博物館などへ送る  
ようにします。

「ピースあいち」の見学にこられた社民党党首  
の福島瑞穂さんからご挨拶をいただきました。

参加者は1日午前11時からと2日交流会終了  
後に、「ピースあいち」の展示を見学しました。

報告者以外に、太平洋戦史館の岩淵宣輝さんと

花岡千賀子さん、アウシュビッツ平和博物館の山田正行さん、立命館大学国際平和ミュージアムの桂良太郎さん、兼清順子さん、池谷りささん、第五福竜丸展示館の藤田秀雄さん、吹田市在住の岩本吉剛さん、そしてピースあいちの赤沢、斎藤、坂井、佐藤、鈴木、畑島、村上、吉田、瀬戸、野原のみなさんが参加されました。このうち、山田正行さんから「アウシュビッツ平和博物館の主な活動」と題した文書発言がありました。

「平和のための博物館・市民ネットワーク」  
会計報告

(2006年11月～2007年11月)

収支報告

収入

会費	150000円
カンパ	1000円
残金	4800円
繰越	95527円
計	251327円

支出

送料	109300円
印刷・ラベル	41147円
繰越	100880円
計	251327円

内訳

会費

04年度	2人	4000円
05年度	2人	4000円
06年度	24人	48000円
07年度	46人	92000円
08年度	1人	2000円
計	75人	150000円

印刷費

日文18号	2510円
英文16号	11760円
日文19号	8620円
封筒代	4961円
封筒印刷費	1310円
ラベル	2706円
英文17号	9280円
計	41147円

送料

日文18号	10000円
英文16号	44840円
日文19号	10580円
英文17号	43880円
計	109300円

繰越

郵便振替	100030円
現金	850円
計	100880円

個人会員

2010年まで納付	2人
2008年まで納付	3人
2007年まで納付	43人
2006年まで納付	25人
2005年まで納付	8人
2003年まで納付	6人
2002年まで納付	1人

入会

6人

退会

3人

事業報告

ニュースの発行

日文18号	2006年11月
英文16号	2007年1月
日文19号	2007年8月
英文17号	2007年11月

メーリングリストの開設 2006年12月

\*\*\*\*\*

平和のための博物館・市民ネットワーク  
第7回全国交流会 報告要旨

「平和のための博物館国際ネットワーク」拡大執行委員会の報告と「第6回国際平和博物館会議」の開催計画について

安斎育郎 (立命館大学国際平和ミュージアム・館長)

去る2007年10月27日・28日の両日、ローマで「平和のための博物館国際ネットワーク」の役

員会（執行委員＋諮問委員）が開催され、統括コーディネータのピーター・ヴァン・デン・デュンゲン氏（英国ブラッドフォード大学）をはじめ、9人が出席しました。日本からは、折しもイタリアで事業に取り組む横田早苗さんらの努力で実現した反核・平和行脚に参加する機会を得た安斎育郎、山根和代両諮問委員が出席しました。

主要な議題は、ネットワークの①定款、②ロゴマーク、③ウェブサイト、④財政、⑤事務局などの諸問題に加えて、⑥第6回国際平和博物館会議の準備状況も取り上げられました。中でも定款案についてはほぼ2年前に安斎諮問委員が提案した案に基づいて逐条的な審議がおこなわれ、第6回国際平和博物館会議の時に開催される予定の総会に提案する成案がほぼ合意されました。現時点での成案はネットワークのウェブサイトでも公表され、広くネットワーク関係者の討議に付された上で執行部が最終的な調整を施し、総会に提案されるでしょう。

また、2008年10月6日～10日に日本で開催される第6回国際平和博物館会議については安斎組織委員長から報告されました。同会議は、立命館大学国際平和ミュージアム、京都造形芸術大学、東北芸術工科大学、広島平和記念資料館、立命館アジア太平洋大学の5者共催で開催される予定で、「平和創造の空間としての平和博物館—地球的諸問題解決のためのピース・リテラシーの構築」を主テーマに開催されます。10月6日～8日は立命館（京都）で、9日は造形芸大（京都）で、10日は広島平和記念資料館（広島）でそれぞれ興味深い企画が計画されています。世界の平和博物館が直面している共通の諸問題について率直な意見交換や経験交流がおこなわれるだけでなく、さまざまな分科会やワークショップが豊かに理論的・実践的諸問題について深める場を与えるでしょう。記念講演にもアッと驚くゲスト・スピーカーをお迎えすべく、組織委員会は懸命に奮闘中しています。また、10月6日は「国際協力デー」、10月7日は「ノーベル平和賞受賞者デズモンド・ツツ大司教の喜寿の誕生日」、10月8日は「佐藤栄作氏のノーベル平和賞受賞決定日」、10月9日は「ジョン・レノンの誕生日＝ジョン・レノン・ミュージアム（さいたま市）開設記念日」＋「世界郵便デー」、10月10日は「原爆投下第1目標だった京都駅西1kmの地点に梅小路蒸気機関車館が開設された記念日」など、会期中の各日程ゆかりの企画も検討されつつあります。

国際会議の詳細は『ミュージズ』でも随時紹介しますが、2008年2月にはウェブサイトも開設されますのでご利用下さい。事務局は、〒603-8577立命館大学国際平和ミュージアム内 第6回国際平和博物館会議事務局（Tel: 075-465-8354、Fax: 075-465-7899e-mail[6peace-m@st.ritsumei.ac.jp](mailto:6peace-m@st.ritsumei.ac.jp)）です。組織委員会は、海外から100名、国内から延べ300名の参加を目指して鋭意努力中ですが、会期全体を通してだけでなく、興味のある日程への部分的な参加も大歓迎ですので、皆さんの積極的な参加を期待します。

## 2007年における平和のための博物館の戦争関係特別展の動向

山辺昌彦

昨年の交流会以降の平和博物館の動向としては、市民の運動の成果としての新しい平和博物館の開館があげられます。2006年12月にわだつみのこえ記念館が、2007年5月にはピースあいちと山梨平和ミュージアムが開館しました。山梨平和ミュージアムは企画展で開館時に甲府空襲を、11月から甲府連隊をとりあげ、ピースあいちは継続的に企画展を開催しています。わだつみのこえ記念館は8月に江戸東京博物館で戦没学生の遺稿展を開催しています。東京大空襲・戦災資料センターは増築し、展示をリニューアルしました。増築部分を使って、空襲の傷跡を伝える写真展などの特別展も開催しています。

埼玉県平和資料館は年表の「従軍慰安婦」の記述が知事から批判され、南京大虐殺の字句や写真が覆い隠されていました。最近、「従軍慰安婦」の記述は、「戦時中の「慰安婦」問題など日本の戦争責任論議多発」にと変更され、南京占領については、「南京事件」と「南京大虐殺」を併記し、村瀬守保さんの写真も新たな説明を付け加えて、復活しました。

平和博物館における日本の戦争をとりあげた特別展について、2007年の特徴は、埼玉県平和資料館と堺市立平和と人権資料館で、戦争の悲惨さを伝える特別展・企画展が開催されたことがあげられます。

歴史博物館では、福生市郷土資料室と上福岡歴史民俗資料館が今までの調査や展示を集大成した特別展を開催しました。継続的に戦争関係の特別展を開催している歴史博物館は、多くは従来通りですが、浅井歴史民俗資料館や近江日野商人館は

変化しています。日野は館長が替わり、絵や人形で戦争体験を伝えるのではなく、現物資料の展示を重視し、そのなかみを伝えようとするものになりました。浅井は、調査をふまえて、現物資料と戦争体験の聞き取りを合わせて展示することが特徴でしたが、今年は提供された村の兵事関係文書の全貌を伝えるような展示になっています。

今年も新たな歴史博物館で戦争関係の特別展が開催されましたが、東村山ふるさと歴史館、亀岡市文化資料館、城陽市歴史民俗資料館、斎宮歴史博物館、桑名市博物館などが地域に根ざした特別展を開いています。

今年は、戦争遺跡をとりあげた特別展が特徴的で、沖縄県平和祈念資料館、日本民家集落博物館などが開催しました。先にあげた亀岡、福生、上福岡なども戦争遺跡との関係が強いものです。また、町田市立自由民権資料館、豊島区立郷土資料館、ピースおおさかなどでは、かなり前に寄贈された資料群を丁寧に紹介するような特別展が開かれました。今年も大学史関係施設での、戦争展示の取り組みの広がりが見られ、新たに同志社大学で開催され、明治大学や京都大学は昨年の展示会の記録をまとめて、公表しています。

## 1990年代半ば以降の戦争関連博物館の動向 (報告要旨)

南守夫 (愛知教育大学)

1990年代半ばまでの戦後日本の戦争関連博物館の歴史を空白期(1945年～50年代半ば)、被害展示期(50年代半ば～80年代半ば)、平和博物館設立期(80年代半ば～90年代半ば)と区分するとすれば、それ以後現在までの時期を対立・共存期と呼ぶことができる。参議院自民党の平和博物館に関する報告書(1996年)を契機とした平和博物館批判キャンペーンがあり、その影響下で東京都平和博物館構想の頓挫など日本軍の侵略・加害行為の展示を中心に一定の後退が見られたが、一方で、「平和博物館ブーム」は一過性のもではなく、民間を中心として平和のための博物館・資料館等も引き続き数多く設立されてきた。他方、戦争を肯定する思想を基礎とする戦争博物館等が自衛隊及び地方自治体等によっても設立または拡大改装され、多数の入場者を記録している(鹿屋史料館、佐世保セイルタワー、靖国神社遊就館の拡大改装、大和ミュージアム等)。この間、「後方支援」又は「人道復興援助」の名の下に米軍主導の

戦争への自衛隊の参加がおこなわれてきた。次に来るのは戦闘参加への動きである。そして、埼玉県立平和資料館のように自衛隊の海外派遣を「国際平和貢献」として展示する動きも見られる。戦争を否定し平和を志向する博物館はこの状況に対して自らの課題の検討を深めることが求められている。

(詳しくは、次のレジメの通りです。)

## 1990年代半ば以降の戦争関連博物館の動向 (レジメ)

南守夫 (愛知教育大学)

### 1. アジア・太平洋戦争(1931年～1945年)後の日本における戦争関連博物館等の概観

<空白期>1945.8.15～1950年代半ば : 鮮烈な記憶の存在、物質的・精神的余裕なし、占領軍の存在

<被害展示期>1950年代半ば～1980年代半ば : 広島・長崎の原爆資料館など被害と戦災復興の展示開始

ただし、・1961 靖国神社遊就館が「宝物遺品館」として再開 1986 戦争博物館として復活・1975/78 : 沖縄県平和祈念資料館の展示替え運動、沖縄住民への日本軍の加害展示

<平和博物館設立期>1980年代半ば～1990年代半ば : 平和博物館が全国各地で設立、ピースおおさかなどで、アジア諸国での日本軍の加害展示、日本に於ける反戦抵抗運動の展示等始まる。

<対立・併存期>1990年代半ば～現在 : 戦争肯定博物館と戦争否定博物館の対立顕在化、反平和博物館キャンペーン、戦争肯定博物館の拡大、平和博物館の増加

### 2. 1980年代半～90年代前半を中心とした平和博物館の設立

1988 大久野島・毒ガス資料館(広島・大久野島)・1989 ひめゆり平和祈念資料館(沖縄・摩文仁)・1989 南風原市民文化センター(沖縄・南風原)・1989 平和資料館・草の家(高知)・1991 大阪国際平和センター(「ピースおおさか」)(大阪)・1992 立命館大学国際平和ミュージアム(京都)→2005.4 拡大改装・1992 静岡平和資料センター(静岡)・1992 川崎市平和館(川崎)・1992 吹田市平和祈念資料室(大阪・吹田)・1993 埼玉県平和資料館(埼玉・東松山)・1994 堺市立

平和と人権資料館（大阪・堺）・1994 福山市人権平和資料館（広島・福山）・1994 佐喜真美術館（沖縄・宜野湾）等

### 3. 1990年代後半を中心とした平和博物館に対する批判キャンペーンとその背景

1993.8-95.2 自民党「歴史検討委員会」、衆参議員105名、委員長・山中貞則、顧問・奥野誠亮・橋本龍太郎・藤尾正行など、事務局長・板垣正、委員：村上正邦、安倍晋三・中川昭一・平沼赳夫など。

1996.4 長崎原爆資料館の展示写真・ビデオ問題

1996.10 参院自民党『全国の戦争博物館に関する調査報告書』について産経新聞報道、ピースおおさか、堺市立平和と人権資料館、吹田市平和祈念資料室、沖縄県立平和祈念資料館、川崎市平和館、広島平和記念資料館、等8か所を「調査」、日本軍の加害展示を中心に批判

1997.1 新しい歴史教科書をつくる会

1997.2 日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会

1997.5 日本会議(会長・三好達前最高裁長官)発足。同時に日本会議国会議員懇談会も発足。

1997-98 頃 産経新聞、雑誌『正論』その他のメディアにおける平和博物館に対する批判キャンペーン

### 4. 1990年代半ば以降の戦争関連博物館の動向

#### 1) 平和博物館に対する批判キャンペーンの影響

・地球市民かながわプラザ：「従軍慰安婦」展示を取りやめ

・東京都平和祈念館構想の頓挫、東京大空襲犠牲者慰霊碑の建立

・愛知県平和博物館構想の頓挫

・大阪国際平和センター（「ピースおおさか」）：加害展示に関する批判・攻撃を受けるが、展示の正確化をはかりつつ、基本的な展示構想を維持

・沖縄平和祈念資料館の拡大改装(1995年)に際しての展示改竄問題：日本軍による沖縄住民に対する加害展示の曖昧化の動きを研究者・マスコミ・一般市民の批判により阻止する。

・堺市立平和と人権資料館：2006年4月のリニューアルに際して加害展示を撤去、代わりに環境問題展示 等

2) 自衛隊関係博物館・広報センター等の大規模化・一般博物館化

1993 海上自衛隊鹿屋航空基地史料館：展示面積 2500 m<sup>2</sup>、入場者数 1993.7~2007.11 : 118万 1985人

1997 海上自衛隊佐世保史料館（「セイルタワー」）：延床面積 4464 m<sup>2</sup>、入場者数 1997.3~2006.5 : 100万人

1999 航空自衛隊浜松広報館（「エアー・パーク」）静岡・浜松）：入場者数 1999.4~2007.10 : 250万人

1999 市ヶ谷記念館（東京・市ヶ谷、防衛庁（現防衛省）内）：入場者数 2000.6~2007.10 : 19万 6959人

2002 陸上自衛隊広報センター（埼玉・朝霞）：展示面積 2400 m<sup>2</sup>、2002.4~2007.11.30 : 66万 5205人

2007 海上自衛隊呉史料館（「てつのかじら館」、広島・呉）：入場者数 2007.4.5~5.19 : 10万人

2008.9 海上自衛隊第一術科学学校「教育参考館」（江田島）改装再開予定：入場者数（第一術科学学校の見学者）：2004年度 72840人、2005年度：119529人、2006年度：90825人

#### 3) 国立戦争関連博物館等

1999 昭和館（東京・九段）・2000 平和祈念展示資料館（東京・新宿）・2005 昭和天皇記念館（東京・立川）・2006 戦傷病者資料館（「しょうけい館」、東京・九段）

#### 4) 靖国神社遊就館の改装拡大展示(2002年7月)

= 日本最大の戦争博物館としてほぼ完全復活  
延床面積 11200 m<sup>2</sup>、入場者数 2005年：322000人、2006年：506000人、2007年（1~10月）：321000人

#### 5) 公立博物館における戦争肯定展示の動向

2005 呉市海事歴史科学館（「大和ミュージアム」）：延床面積 9628 m<sup>2</sup>：入場者数 2005.4.23~2007.5.20(開館日数 668日目) 300万人 軍事技術の「発展史」の賛美、軍都としての歴史の再評価、比較：米国の軍事博物館(Udvar-Hazy Center (Virginia)etc.)、原爆博物館(Bradbury Science Museum(Los Alamos), National Atomic Museum(Albuquerque)etc.) 「教育参考館」（江田島）及び「てつのかじら館」との一体化

\* 広島原爆資料館入場者数 2004年度：106

万 5029 人、2005 年度：119 万 993 人、2006 年度：123 万 9853 人

長崎原爆資料館入場者数 2004 年度：68 万 7776 人、2005 年度：69 万 3941 人、2006 年度：71 万 5792 人

2006-2007 埼玉県平和資料館（年表改竄問題、「国際平和貢献」展示問題）

#### 6) 平和博物館の新設

1995 太平洋戦史館（岩手・衣川）・1995 岡まさはる記念長崎平和資料館（長崎市）・1997 平和人権子どもセンター・教科書資料館（大阪・堺）・1997 無言館（長野・上田）・2001 高麗博物館（東京・新大久保）・2002 東京大空襲・戦災資料センター（東京・江東区）→2007.3 拡大改装・2004 対馬丸記念館（沖縄・那覇）・2005 女たちの戦争と平和資料館（東京・新宿）・2006 中国帰還者連絡会記念館（埼玉・川崎市）・2006 わだつみのこえ記念館（東京・本郷）・2007 戦争と平和の資料館ピースあいち（名古屋）・2007 山梨平和ミュージアム（甲府）等 \*80 年代からの「平和博物館ブーム」は一過性のものではなかった。

#### 7) 国立歴史民俗博物館の戦争展示計画

（延床面積：35,548m、ただし戦争史常設展示は 1 部屋のみの予定）

2006 特別展「佐倉連隊にみる戦争の時代」の意義と問題

2010.3 常設展に戦争史展示新設予定（2007 年概算要求済み）

#### 5. 自衛隊海外派兵をめぐる歴史との関連（「難民救援活動」「国際緊急援助活動」は除く）

1991.6-9 「ペルシャ湾掃海派遣」：自衛隊初の海外派兵

1992.9-1993.9 「カンボジア国際平和協力業務」・1993.5-1995.1 「モザンビーク共和国国際平和協力業務」

1996.2- 継続 「ゴラン高原国際平和協力業務」

2001.11-2007.11 「インド洋派遣海上支援活動」：米軍主導の戦争への「後方支援」という名の戦争参加

2002.2-2004.6 「東ティモール国際平和協力業務」

2003.4 経済同友会憲法問題調査会意見書『自立した個人、自立した国たるために』、憲法「改正」を提言、また緊急課題として有事法制整備、集団

的自衛権の行使に関する政府見解の変更、「憲法改正のための国民投票手続法」の整備などを提言、同調査会委員長高坂節三は「海外進出した日本の資本と人材を守るために自衛隊を海外派兵すべき」と公言（朝日新聞、2003.5.27）

#### 2003.6 有事関連三法案成立

2004.1- 継続 「イラク人道復興支援活動」：米軍主導の戦争への「人道支援」という名の戦争参加

2005.10 自民党「新憲法草案」、前文から「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように決意し」を削除、第 9 条から「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」を削除、新たに「第九条の二（自衛軍）」を設け、自衛軍の任務として、「我が国の平和と独立並びに国及び国民の安全を確保する」ことのほかに、第三項に「国際社会の平和と安全を確保するために国際的に協調して行われる活動及び緊急事態における公の秩序を維持し又は国民の生命若しくは自由を守るための活動」を加える。

2006.12 「改正」自衛隊法成立、海外派遣が付随的任務から通常任務に

2006.12 「改正」教育基本法公布

2007.1 防衛庁が防衛省に昇格

2007.5 日本国憲法の改正手続に関する法律成立

\*2001 年以後、日本はすでに米国主導の海外での戦争に実質的に参加していると言わなければならない。次に来るのは本格的な戦争（=戦闘）参加をいかに押しとどめるかという問題である。

代わりに）平和博物館の課題について

本格的な海外での戦争参加に向けて準備が進められているという状況認識に基づいて、平和博物館の課題を考える必要がある。以下はその検討のための一例として提示する。

1) 日本「政府の行為に」よる「戦争の惨禍」の歴史を展示し続け、忘却を防ぐこと。その際に、自国民の被害だけではなく、「敵」国民等の「被害」、つまり自国の「加害」についても明示すること。そのことによって「戦争の惨禍」の全体像を提示すること。

2) 戦争被害者の支援の取り組み、公正な補償のための取り組みを支援・紹介すること。

3) 戦争をおこなうための政治的・社会的・文化的な準備活動を批判する取り組みを支援・紹介す

ること。そして、平和のための文化の紹介・発信の場となること。

4) 現におこなわれている各地の戦争の「惨禍」を提示すること。

5) 戦争によらない国際紛争の解決、国際紛争の原因の除去、国際的な平和共同体の取り組みなど、平和な未来社会のための諸活動を支援・紹介すること。

6) 以上の活動の前提として、また戦争推進勢力による批判に適切に対処するために、正確な展示のための調査・研究活動の体制を一層整備すること。

7) 以上の活動を通して、地域住民との交流・連帯の輪を広げること。

### わだつみのこえ記念館：東京

わだつみ記念館基金理事長 永野 仁

2005年1月NPO設立総会、7月東京都認証、8月法人登記。1階—事務室、会議室、資料保管・図書館。2階—展示室、ビデオ・DVD視聴コーナー。2006年12月1日開館。4日一般公開開始。開館時間—月水金の午後1時半～4時。観覧者数—月100人前後。グループ・団体が2、3ある。入場料は無料とし、維持カンパ箱を置いた。これは成功であった。賛助会員(1口1万円)と維持会員(2千円)を募っている。これを増やす事が急務。今夏、館外での特別展示。8月14、15、16の3日間、東京江戸博物館。ビデオ上映、映画・講演会とあわせて開催した。わだつみ会と共催。入場者3000人。14日夜のNHKテレビニュースがきいて、15日は開場前から人がつめかけ入場者は1500人にのぼった。

わだつみ会と共催でフォーラムを2回開催した。

- ①高橋武智「スロベニアを通じて見た戦争と平和」、
- ②雪山伸一「東ドイツ市民にとってのドイツ統一」。

### ベトナム戦争における枯葉剤被害の写真展、シンポジウム、モニュメント建設の検討

東京大空襲・戦災資料センター 梶慶一郎

#### 1. 中村梧郎写真展

2008.6.15-7.15

JICA横浜展示場(決定)

別に「空爆による枯葉剤撒布」のシンポジウムができないか。

#### 2. 写真「枯れたマングローブの中の少年」のモ

ニュメント建設(ベトナム・日本)について

- ・この少年は現在38歳、重度の脳性マヒ
- ・ベトは26歳で死亡した。

枯葉剤で影響を受けた人は480万人。

内2～300万人が被害を受けた。

既に多くの人は亡くなっている。

現在国から援助を受けて治療している人は13000人。

治療を受けていない人は把握できていない。

・この写真は、自然を破壊し人間の尊厳を奪った許し難い20世紀戦争の悲惨さを伝えるもの—ピカソのゲルニカと同様に。

・アメリカが今、アフガンで枯葉剤作戦を検討。

・この写真は、立命館大学(全紙大)、東京都写真美術館(パソコン)、山梨県立博物館(投影方式)にある。

・沖縄のヤンバル地域で、1960年代に枯葉剤が撒布された。

米軍基地におけるダイオキシンの調査が必要。

### 山梨平和ミュージアム開館の意義

山梨平和ミュージアム理事長 浅川保

#### 1. 山梨戦跡ネットの歩み

1998/8/8 山梨県戦争遺跡ネットワーク結成

2000/7/15 『山梨の戦争遺跡』を山梨日日新聞社より刊行

2002/8/24～25 第6回戦跡保存全国シンポ山梨(甲府)大会で、山梨平和資料センターの建設を提起

#### 2. 山梨平和資料センター準備会の取り組み

2003/7/7 準備会結成 県民への呼びかけ

2004/7/18 平和の集い 講演早乙女勝元氏

2005/7/6 県民から募集した体験記を基に『伝えたいあの戦争』刊行

2006/7/19 運営委員会で建設予定地決定

2006/11/28～ 「偉大な言論人・石橋湛山展」を開催

2007/4/21 山梨平和ミュージアムの竣工式

2007/5/26 山梨平和ミュージアム開館・オープン。セレモニーと記念の会に130名参加。

#### 3. 開設までの取り組みを振り返って

600を超える個人・団体から3800万円の賛同金・資料が寄せられ開館。

戦争体験の継承・非戦・平和を発信するミュージアムへの熱い期待を痛感。

過去から未来へ、心と心をつなぐ取り組みを実感。

#### 4. 山梨平和ミュージアムの目的と活動・展示内

容

15年戦争に関する資料の収集・保存・展示

②平和・民権・自由主義を貫いた石橋湛山の生涯と思想の紹介

③私の展示コーナーなど市民参加型の運営を重視

④平和憲法の意義、戦争と平和に関する情報の発信・交流

1階が甲府空襲・甲府連隊等戦争関係の展示。

2階が石橋湛山の生涯と思想を展示。4箇所の展示コーナーを設け、市民提供の資料を展示。

5. 開館6か月・今後の課題

最初の企画展が「甲府空襲の実相」、11月から「甲府連隊の軌跡」を展示。毎月1回の講演会、証言を聞く会、読書会等を実施。11月に開館記念シンポジウム「いま 石橋湛山に学ぶもの」を開催。会報を2号発行。県内外から1300人が見学した。

小・中・高・大学など若い世代の見学者をどう広げるか、魅力的な企画・展示の充実、財政の安定化が課題。

## アティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(WAM)からの報告

### 「国際的な連帯運動とアティブ・ミュージアム運動」

WAM運営委員長・池田恵理子

・年頭から米国下院で日本政府への「慰安婦」決議案の議論が始まったこともあって(7月30日には採択)、この1年は「慰安婦」問題が改めて国際社会でクローズアップされ、国際的な連帯活動や海外からの取材・訪問が活発な年になった。これはアジアだけでなく欧州やオーストラリアにも広がっている。

・東ティモール展(2006年12月～07年5月)をきっかけに、WAMのパネルをテトゥン語にして東ティモールへ贈るプロジェクトがスタート。また2008年6月から開催予定の中国展では、中国山西省の記念館でWAMのパネル展を同時開催する企画を進めている。これまでも英語版やハンダ版にしたパネルの一部を現地で展示する試みはあったが、このように大規模な動きは初めてである。

・9月にはドイツのラーベンスブリュック女性収容所跡の記念館で、戦時下の強制売春の夏季セミナーが開かれ、WAMからの報告が盛り込まれた。これら「慰安婦」問題をめぐる国際的なムーブメントの動きと背景を報告したい。

## 都立第五福竜丸展示館より

安田 和也

第五福竜丸は建造60年・還暦をむかえた。アジア太平洋戦争直後の食糧難の時代には、たくさんの木造漁船が建造された。水爆実験に被災した1954(昭29)年に登録されていた木造漁船(カツオ船、マグロ船)は、約800隻、その中で現存する唯一の木造船が第五福竜丸である。

もはや日本で建造されることのない大型の木造船(全長は約30メートル)。その建造技術や工法、船大工の仕事についても記録し、産業文化財としての位置づけ、視点を取り入れて、今春4月から9月初旬まで「船大工の技と仕事」と銘打った特別展を開催した。

第五福竜丸の内部と20年前におこなわれた大補修をつうじて船の構造や船大工の仕事を表示する映像を製作した。船大工道具、船体肋骨模型や70年前に作られた木造漁船の構造模型、船の外板を曲げる蒸し曲げ機の模型など100点余を展示、元船大工や造船関係者も来館した。「原水爆問題についてはこの展示館の考え方には異論があるが、木造船を継承してゆく努力はぜひつづけてほしい」との感想も寄せられた。

2008年は船の保存がよびかけられて40年のメモリアル。市民の原水爆反対、平和への希いととりくみで守られ保存された、その意味を問う企画を準備している。

## 戦争と平和の資料館ピースあいちの現状と課題

宮原 大輔

- I. 本年1月から5月開館までの取組み  
展示パネルの確定と仕上げ 展示資料の選択  
展示設備の契約(1/16)と工事 ボランティアの募集と研修会  
建物の竣工・引渡し(2/28) 事務所の引越し(3/31)  
お地蔵さま(4/9)  
什器備品の購入と搬入 資料の燻蒸と搬入(4/9～4・11)  
オープン企画の準備 マスコミ内覧会(4/26)
- II. 開館行事(5/4～5/6)  
オープニングセレモニー  
講演と音楽の夕べ(早乙女勝元先生)  
ミニコンサート・朗読会
- III. 5月以降の特別企画

- ① 7月3日～20日  
金城中学・高校生による「祖父母に聞いた戦争体験＝15歳の語り継ぐ戦争」
- ② 7月21日～8月11日 「青い目の人形展」
- ③ 8月1日～15日 「ピースあいちの夏・連続企画＝語り継ぐ戦争体験」
- ④ 8月14日～9月1日 「ハンナのかばん展」  
8月18日石岡史子講演会  
10月2日～11月3日 「コスタリカガラス絵展」  
10月27日児玉房子講演会
- ⑥ ピースセミナー8回(9月～12月)「沖縄から平和を考える」
- ⑦ この2年間に寄贈された戦争資料の特別展  
第1回寄贈資料展 11月14日～30日「軍隊生活」  
第2回寄贈資料展 12月5日～21日「国民生活・学校生活」  
第3回寄贈資料展 1月9日～2月1日「特別遺品展」
- ⑧ ミニコンサート(2回)

#### IV. 日常的な作業の進捗状況

- 資料の整理・寄贈図書のカテゴリ整理も進捗
- 2階展示室の展示資料の解説キャプションを近く更新予定。
- 子ども用の展示ガイドの作成
- ニュースの発行
- 展示の解説マニュアルの作成
- 点字による館案内リーフ
- ・ 今後の企画

##### ① 特別展

2月～3月 池田初子さんの「女性の服飾からみた戦争の時代」展を計画中。

##### ② 1周年記念に向けて

来年5月の開館1周年記念企画として、「沖縄」をテーマにした特別展や講演会(5月4日には大田昌秀元沖縄県知事の講演を交渉中)などを計画中。

準備として、ピースセミナー8回「沖縄から平和を考える」を実施

#### VI. 日常の運営

専従職員1人、事務局1～2人、ボランティアさん5人、

運営委員会、執行部会議、展示委員会、企画委員会、編集委員会、資料PT、図書PT

#### VII. 来館者数

5月以来約9000人

##### ・ 団体・学校関係

団体の来館数・・・58(ただし、予約申し込みのみ)

学校(大学を含む)・・・16校 訪問事業・・・5校

#### IX. 会員の増加・カンパ収入(5月以降分)

① 新規会員数(正会員・賛助会員) 102名・104名

② カンパ 合計 2,537,204円

#### X. 今後の課題

企画の充実と財政基盤の確立

来館者の確保・・・一般的な広報 団体・学校への働きかけ

会員の拡大(目標500人・1000人)(現状240人・311人)

支援者・支援団体登録の拡大

助成金の獲得

#### 平和博物館研究会(京都)の活動紹介

福島在行

本報告で紹介した平和博物館研究会は、2007年3月から京都で開催している小規模な私的研究会である。平和博物館の展示やあり方に関心を持つ20～30代の大学院生を中心に、2か月に1回程度のペースで開催している。平和博物館は相当数存在するにもかかわらず、それを対象とした研究は意外にも少なく、それを議論する場もきわめて限定されている。そのような中で、まずは平和博物館をめぐる議論できる場を、という目的からこの研究会を結成した。現在までに5回の研究会を開催し、初めの3回は書籍の検討会、最近2回は個別の研究報告である。参加人数は現在までに10人強、平均して5～8人くらいである。参加者の専攻・関心領域は多様であり、平和博物館を直接の対象にしているものは少ないが、それでも数名存在している。現時点で研究会を積極的に拡大する予定はないが、予想以上に平和博物館に関心を持つ若手研究者に出会えたため、予想を越えて研究会が広がって行く可能性はある。そのような形で条件が整ってきた場合、私的研究会の域を脱してより大規模でオープンな研究会へと変化していくことも考えられるが、しかしそれはまだしばらくは先のことだと思われる。当面はこじんまりと、しかし密度の濃い研究の空間を蓄積して行きたい。

## 国連とデトロイトの平和センターで

平和資料館「草の家」山根和代

8月8~10日にニューヨークの国連で平和教育シンポジウムが開催され、参加した。私は「平和博物館における平和教育」という内容で報告をし、ニューヨーク大学のジョイス・アプセルさんとワークショップをおこなった。シンポジウムでは学校における平和教育だけでは不十分で、地域における平和教育の必要性が強調されていたが、平和博物館・資料館こそ学校と地域において平和教育を推進していると思う。

その後ミシガン州デトロイトにある「刀を鋤に一平和センター・美術館」(Swords into Plowshares Peace Center and Gallery)を訪問した。すると1995年に「草の家」から送った被爆者のパネル写真が、展示されていた。その際「草の家」の会員が折った鶴をいっしょに送ったが、その後デトロイトの子ども達がたくさん鶴を折り、それも展示されていた。芸術を通して平和を求めているが、絵画、彫刻、子ども達の作品などが展示されていた。8月14日には平和センターに人びとが集まり、歓迎して下さった。それでも「草の家」の活動や日本と世界の平和博物館について報告をしたが、つぎつぎと質問や意見が出され活発に交流をすることができたと思う。

### \*\*\*\*\* その他の報告 \*\*\*\*\*

交流会に参加できなかった方に、活動内容を紹介していただきます。

#### 松代大本営の保存をすすめる会：長野 平和祈念館開設をめざす「平和祈念展」

北原 高子

長年の願いである松代大本営祈念館の設立は、多くの方がたの支援をいただきながら未だ実現していません。そこで、少しでも「祈念館」がイメージできるものを展示し、地域の皆さんに理解と協力を得ようと年に一度公民館の一室を借り、「松代大本営平和祈念展」を開催しています。

3回目の今年は12月8・9日に開催し、2日で延べ150人を超える参加者で混み合いました。昨年までのパネルや遺物に加えて、今年は地下壕見学のあと寄せられた感想や寄せ書きなどの「見学者の声」、地下壕の設計図、松代高校生が描いた絵

を加え、全体像は「写真でたどる松代大本営」のパワーポイントで説明しました。そして皆神山地下壕(前号に掲載)の側に住む坂口さんから見ていただいた祖父富之助さんの「公私大観録」の関連部分の展示は、一番大勢の目を引きました。記録は大変詳細で、ところどころに挿絵が入っています。「皆神山軍事施設」の絵には、坑口が開いた山と道路、朝鮮人飯場が「半島の家」と記され5棟のバラックと3棟の三角兵舎、家の畑の中に造られた「火薬庫」などが描かれ、さらに「20年8月13日長野市襲撃の日、米機13」と書かれ、空には鳥と思いきや、飛行機が13機描かれています。別ページにはどこの家がどんな被害をうけたかが記され、8月23日の記録では、敗戦で軍部の監視も弱くなり、地下壕の材木を持って行って良いとの噂で一夜のうちにすっかり持ち去られたこと、そして次の日巡査が廻ってきて全部返せと言ったがほとんど返らなかったことなどが、材木を担ぐ人や、大八車で運ぶ人の絵とともに書かれています。こうした貴重な掘り起こしも楽しみですが、一日も早く常設の平和祈念館がほしいと、見学者ともども語り合いました。

#### 高知の夏そして秋へ

日渡あゆみ

高知の夏といえばよさこい祭り。納涼花火大会に川遊びにと誰もが忙しい時期であるが、平和資料館・草の家の夏も本当に忙しい。

『ピースウェイブ 2007 in 高知』が始まると高知市の商店街には色とりどりの百万羽の鶴が舞う。60年以上昔、1945年7月4日、高知市は火の海となった。高知空襲である。たくさんの焼夷弾で空は真っ赤だったと高知市より郊外に住んでいたおじいさんが言っていた。あれから、この戦争の悲惨さを風化させたくない気持ちで故 西森茂夫氏を中心に高知市民が「高知空襲展」を1979年からはじめた。草の根の運動が輪をつくり、現在では複数の活動団体と力を合わせ『ピースウェイブ(平和の波) in 高知』という平和行事を毎夏おこなう。小・中学生や施設の方々が平和と追悼の意をこめて折った鶴で商店街を彩る「七夕まつり」、「高知空襲犠牲者追悼会」「反核平和コンサート」「戦争と平和を考える資料展(元 高知空襲展)」「アジアの人々が連帯する集い」「ピースアクション in こうち」、大豊町にある「憲法の森のつどい」、「平和映画祭」や「掩体コンサート」などが主要なイベントである。

今年は資料展でも東洋町の核廃棄物問題をとり

あげ、同時にチェルノブイリ原発事故の写真展を開催した。地域切り捨ての政治によって地方の財政は苦しい。そんな矢先に金銭で核のゴミ捨て場としての利用を提案してきた。私は高知県民ではないがほんの数年前でも高知の魅力を語れる。自然の豊かさはもちろん、空気もおいしいところが多く、少し田舎に行けば人びとのつつましくも豊かな自然の恵みで成り立つ生活風景をのぞける。このような土地を一時の利で危険な場所に選択をするなんて、しかも町長の独断で。来場した方がたにとっても核兵器や原子力発電という物に対して考えるきっかけとなった。また小・中学生や市民も七夕まつりの鶴を折ることによって平和への思いを新たにすることができる。授業の一環として取り組んでいる学校もある。また今年は、高知では深刻な高齢化の問題を考えるという意味も込めて介護・養護施設の方がたとも一緒に七夕まつりに参加した。毎年おこなわれる平和コンサートや今年初の掩体コンサートでは涙あり笑いありの大盛会となる。各会場では老若男女が思い思いに表現や交流をしていて新しいつながりが生まれる。歴史を風化させず現在の私たちの生活、そしてこれからの選択に過去の遺産を生かすためにもこの平和への取り組みは止まらない。来年は30周年目、より大きな平和の波が高知から巻き起こるに違いない。

そして夏から秋へ。近日中にお寺を舞台に尺八とジャズのコンサートが行われる。『癒し』をテーマにしたイベントである。現在の労働者はとても忙しい。大人だけでなく子どもたちもそうだ。自分自身を見つめ、友だちと見つめ合い語り合う時間はどれほどあるだろうか。ひとりひとりの心の中にどこまでも駆けめぐる風、自分と世界とに思いを馳せられるような風がふくように、秋も草の根の平和運動は続く。

## 岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長 高實康稔

当館の近況と今後の予定をお知らせします。

8月13～19日、第5回《日中友好・希望の翼》訪中団が上海、南京、天津を訪れました。《希望の翼》としての学生公募に、今回は1名の応募しかなく、その学生も保護者の反対に遭って断念を余儀なくされ、結局、理事会で知人・友人に当たって希望者1名を探すことに成功しましたが、その学生が実に見事に使命を果たし、今後の活動が期待されるとはいえ、日中関係や歴史認識に対する若い世代の無関心を痛感させられ、南京大虐殺70周年にしてこのような状況にあ

る日本の政治と教育の責任をも問う旅となりました。

9月12日、ドイツの良心的兵役拒否者ロマン・バラバスさん(Roman Balabas 21歳)が、当館で代替役務を開始されました。期間は11か月です。彼はヤネク・ダンさん(Janek Dann)に次ぐ2人目ですが、流暢に日本語を話し、高校生の平和運動グループと交流するなど、早くも精力的に活動しています。NHKの「おはよう日本」(10月30日)で紹介され、当館の知名度をも高めました。彼も独日平和フォーラムの推薦によりドイツ政府から派遣されましたが、日独平和フォーラムの代表であられた小田実氏のご遺志に合うためにも、両フォーラムとの連携を強めたいと考えています。

10月28～31日、長崎の中国人強制連行裁判控訴審(29日、福岡高裁)のために控訴人代表2名が来日され、冒頭陳述をおこなうとともに、使役企業三菱マテリアル(株)に直接交渉を要求し、また、長崎市に対して中国人強制連行原爆犠牲者追悼碑の建立を要請しましたが、当館も全面的に支援し、理事数人がご一行と行動を共にしました。

11月23日、昨年11月21日に逝去された朴玫奎(パク・ミンギョ Pak Mingyu)さんを偲ぶ会を催し、合わせて追悼集を刊行します。朝鮮人被爆者の最後の語り部であられた氏は当館の大きな支えでもありました。哀しみに堪えません。氏を偲ぶ会に続いて、第5回総会を開催します。NPO法人化前との通算では13回目となります。財政状況は依然として厳しく、特に修学旅行生の「長崎離れ」が減収に響いていますので、来館校の増加を図る対策が重要な案件となるでしょう。

12月12日～14日、侵華日軍南京大屠殺史国際学術検討会に理事長が参加します。

\*\*\*\*\*

## 小説「黒い雨」の資料館開館：広島

原爆により後遺症の悲劇を描いた井伏鱒二の小説「黒い雨」の舞台となった広島県神石高原町小島に、小説の資料を展示する「ふれあい平和サロン 歴史と文学の館 志麻利」が開館しました。

「黒い雨」は広島への原爆投下で放射性降下物に打たれた人びとの苦労がテーマで、小島村に住んでいた故重松静馬氏がモデルとなっています。

さろんは、今年5月に開館し、地元住民でつくる「志麻利の会」が運営。小説の基になった重松氏の手記や手紙などが展示されています。

問い合わせは、次の通りです。

Tel : 0847-85-2808

(高知新聞 11 月 22 日の記事より)

### 中帰連平和記念館：埼玉

中帰連とは中国帰還者連絡会の略ですが、2006年11月3日に開館しました。日中戦争で出兵し、戦後シベリア抑留、中国戦犯管理所を経て帰国された方たちが1957年に結成された会です。「反戦平和」「日中友好」の旗の下に、戦争下の加害証言と、撫順戦犯管理所における人道的な待遇の中で人間性を取り戻す経験を語り続けてきたのです。元都立大学総長、故山住正巳さんの蔵書2万冊あまりも、寄贈されています。

開館日は水、木、土の10時30分から17時まで。はじめての人は、前日までに電話予約が必要で  
郵便番号：〒350-1175

住所：埼玉県川越市大字笠幡1947番地25

代表理事 仁木富美子

連絡先：049-231-9706

### 第11回戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会

8月17日、18日に、戦争遺跡保存全国ネットワーク主催の第11回戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会が一橋大学で開催されました。テーマは、「戦争の記憶と今日の歴史認識」でした。

吉田 裕氏(一橋大学大学院社会学研究科教授・日本近現代史)が、基調講演「現代日本における戦争の記憶と戦争責任問題」をされました。

分科会では、次の内容で討議されました。(第1分科会)「保存運動の現状と課題」:各地で展開されている保存運動の成果・現状と課題を報告・交流する分科会、(第2分科会)「調査の方法と保存整備の技術」:調査方法や保存整備の技術など、他の専門機関との協力連携も含めて報告・交流する分科会、(第3分科会)「平和博物館と次世代への継承」:各地の平和博物館・資料館づくりやその見学などを通して、何を伝え、何を受け継ぐのかを報告・交流する分科会

フィールドワークとして、(1)しょうけい館(戦傷病者史料館)、靖国神社・遊就館(2)女たちの戦争と平和資料館、わだつみのこえ記念館、東京大空襲・戦災資料センター(3)旧陸軍省・東京裁判法廷、青山練兵場、軍用停車場跡、「出陣学徒壮行の地」碑他(4)東大和立川飛行機変電所、中島飛行機三鷹研究所、調布飛行場掩体壕、浅川地下壕を訪問しました。

戦争遺跡保存全国ネットワークのホームページより  
<http://homepage3.nifty.com/kibonoie/isiki.htm>

\*\*\*\*\*

## 海外のニュース

### 侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館が新装オープン

国際平和ミュージアム館長 安斎育郎

2007年12月13日、南京虐殺事件からちょうど70年目の記念日に、「侵華日軍南京大屠殺遇難同胞記念館」(以下、南京虐殺記念館)が大々的にリニューアル・オープンしました。敷地面積74000㎡、建築面積25000㎡、展示面積9800㎡という広大なもので、大改装事業を可能にし、それを統括・指揮した朱成山館長の力量を感じさせます。

館の基本コンセプトは、南京事件の遺骨などの発掘現場に作られた「遺跡型歴史博物館」と自己規定されていますが、館全体の造形は「平和の舟」、横から見ると「折れた刀剣」、上から見ると「化剣為犁」(剣を鋤に変える姿)をも象徴しており、ガイドブックには、「戦っていた両国が平和な関係になる」と説明されています。その意味で「平和のための歴史博物館」としての性格をもっています。

展示はリニューアル前に比べて非常に現代化され、南京事件についての展示も、近年の調査・研究活動の成果を反映したものになっています。加えて、虐殺に関わった元日本兵の証言や、南京事件をめぐる日本での裁判の判決、政府や民間レベルでの日中友好活動などについてもそれなりのスペースを割いているので、「日本人憎し」という怨念を募らせたまま放り出されることもないように思われます。リニューアル後の記念館を参観した中国人や日本人がどのような感想をもつか、今後の調査結果が注目されます。

折から、笠原十九司氏の『南京事件論争史—日本人は史実をどう認識してきたか』(平凡社新書)、巫召鴻訳『ザ・レイプ・オブ南京』(同時代社)、巫召鴻著・山田正行解説『ザ・レイプ・オブ南京を読む』(同時代社)が相次いで発売された時期でもあり、日本でも南京事件についての認識が深まることが期待されます。笠原氏の著書巻末の情報を整理すると、1960年代以降の南京事件関係の著作の刊行状況は以下の通りです。特徴は、21世紀に入ってから、小林よしのり氏の漫画を含めていわゆる「否定派」の刊行物が点数では凌駕して

いることで、現在の若者はこの時代に育ちました。その論点はすでに破綻したものであっても、声高に叫ぶ犬の方が怖がられるという効果はあり得ますので、引き続き真実を見極め、普及する努力が欠かせないでしょう。

年代	史実派	否定派	虐殺少数派	合計
1960年代	1	1	0	2
1970年	14	3	0	17
1980年代	27	6	3	36
1990年代	30	11	1	42
2000年代	12	20	2	34
合計	84	41	6	131
	(64.1%)	(31.3%)	(4.6%)	(100%)

### イ・ジュン平和博物館:オランダ

イ・ジュン記念祭と朝鮮に関する国際平和会議が、7月13日から14日までオランダのハーグで開催されました。イ・ジュン(Jun Yi: 1859-1907)は、1907年7月14日第2回ハーグ平和会議に参加した際、亡くなりましたが、朝鮮の独立運動のために闘って非常に尊敬されている人物です。彼は日本政府に朝鮮の代表としてハーグ平和会議に参加できないようにされました。

彼は朝鮮民主主義人民共和国の **Bookchung** で生まれました。検察官として仕事をし、独立クラブの会員として1904年日朝併合の反対において指導的な役割を果たしました。

1907年にハーグ平和会議に特別使節として派遣されましたが、目的を達することなく亡くなりました。

(“Centennial Anniversary of Special Envoy to the Hague”より)

Yi Jun Peace Museum

Wagenstraat 124A, 2512 BA The Hague, The Netherlands

[yijunpeacemuseum@hotmail.com](mailto:yijunpeacemuseum@hotmail.com)

(With thanks to Dr. Peter van den Dungen)

### 子供たちのための平和の人権博物館:パキスタン

「子供たちのための平和の人権博物館(CMPHR)」は2009年パキスタン・カラチに開館予定で、現在建設工事が進められています。敷地面積11000平方メートルを超える建物には5つの展示室、9つの会議室、大講堂、図書館と資料室が設けられます。

CMPHRは1995年からパキスタンの子供たちを対象として平和と人権教育に携わってきたHREP(人権教育プログラム)という団体の事業の一環として建設さ

れているもので、子供たちに楽しみながら多角的に社会問題を体験学習してもらえよう工夫した施設です。

CMPHRは少し趣向を変えた実験的な博物館で、3つの特徴があります。

まず、CMPHRは子供を対象とした世界でも唯一の平和博物館です。世界には多くの平和博物館、それから子供のための博物館がありますが、子供のための博物館で平和と人権を専門的に扱う博物館は今のところありません。

第2に、CMPHRは社会教育を専門とし、子供たちが社会について理解を深めることを目的としたもので、平和、人権、社会正義などのキーコンセプトに基づいています。CMPHRでの体験学習は偶発的なものではなく系統だったものであり、CMPHRを構想、実現、そして運営するにあたっての原動力ともなっています。子供は遊びや実体験を通して学ぶもので、CMPHRは子供にとって楽しく体験できる場となるでしょう。

第3にCMPHRは活動的で実践主義者の集まりとなるでしょう。地域の、そして国際的な問題にも関心を持って取り組むような意欲をかき立てるための運動をします。CMPHRは力強いメッセージを持ち、不可欠な情報と平和、人権、社会正義にまつわる事例研究をもって博物館を訪れる若者の意欲をかき立てたいと思います。

CMPHRの強みは、12年に及ぶパキスタンの子供や教師たちとの協力の歴史です。現在でもパキスタン国内の325の学校と30の団体と協力をしています。2004年7月には3つの日本の団体と共にHURIGHTS OSAKAからアジア地域における国際人権教材賞を受賞しました。

2001年の構想から今日まで、CMPHRはじっくりと運営方針を構築してきました。私たちに博物館を設立する知恵も経験もありませんでしたが、他の博物館や専門家の協力を得て今日に至りました。これからもこの夢を達成するためのお力添えをよろしくお願いいたします。

CMPHRのさらに詳しい情報は下記URLにてご参照ください。

<http://www.cmphr.org>

### ビルマの忘れ去られた友達(Forgotten Friends from Burma)

Ben Manserによる新しいマルチメディア展

(文:Benny Manser、Ian McClurg-Welland)

忘れられた友達というのは、ビルマ(旧ミャンマー)

の難民、カレン族のことです。8つの主たる民族の一つであるカレン族はビルマ国民 5000 万人中約 500 万人を占め、1980 年以降、約 80 万人のカレン族が隣国であるタイに逃亡したと推測されています。忘れられた友達は残忍なビルマ軍による行為の被害者であるカレン族の苦境、たとえば抑圧との戦いや時には乗り越えがたい日常の難問などを記録したものです。

2006 年夏にカレン族難民の生徒との協力により取り組まれたこのプロジェクトは、一方ではまだ外の世界のことは全く知らない無邪気な子供を、また一方ではより良い明日への障害となっている残酷な現実を映し出しています。内容としては、旅行写真の展示、子供の本、インタラクティブ DVD、そして多様な会場で行われるワークショップなどがあり、忘れられた私たちの友人の美しさや悲しみが対等な目線で視覚的に記録されています。

Manser は「母と子」で 30 歳の未亡人とその息子を映していますが、その母は難民キャンプへの逃亡しなければならなかった暗い影を微塵も感じさせない無邪気な笑みを浮かべています。Manser は「Naw Shar Mlu とその息子は 2005 年 11 月に起こった Karenni Solidarity Organization の民兵による夫の拉致の後も、大変な困難も乗り越え、生き残りました。自宅を焼け出され、12 月には夫が殺害されたとの知らせを受け、その後も彼女の苦しみは続きます。」と説明しています。この映像は強いられた貧困や損失と世界的受容性の間に存在する微妙な境界線を描き出しています。

「葦の中に隠れている Norda」では Manser は Norda の知的好奇心と同時に彼女が喜びに満ちた静けさを楽しむ様子も映し出し、境界線と環境についての議論をします。境界線は葦の茂みだけではなく、文化的、民主的に作り出される距離によっても作られます。Manser は更なる苦悩に直面します。Manser は「Norda は 4 人兄弟の 1 人で、母親によって育てられました。Norda の父はビルマに残りました。撮影の後 Norda に再び会うことはありませんでしたが、結局、Norda の母親は Norda や彼女の兄弟たちを育てることができず、4 人の子供はキャンプ内の寮に預けられました。Manser による胸が張り裂けるようなキャプションは混乱状態にある世界規模の道徳に疑問を呈するものです。

「Sun Cream Child」には、世界中の子供たちや純真さに通じる遊び心が見られます。Manser によれば、カレン族の親はサンクリームを使って子供の顔に複雑な模様を描くそうです。子供たちは、遊んだり、顔に絵を描いたり、物まねをしたり、演技をしたりすることが大

好きです。この写真には万国共通の子供の魅力が表現されています。その中の子供はイギリスの公園でかくれんぼをしてもおかしくないほどですが、Manser は、今一度現実に目を向けるよう呼びかけています。そして、その呼びかけは全ての展示物に一貫しています。

Manser のコレクションは感情が混ざり合っています。それぞれの写真が目を釘付けにし、同情を呼びますが、それは決して見下したり、判断を鈍らせたりするようなものではありません。他のよい展示が相であるように、Manser は答えよりも問いかけを多く残しています。怒りや不信感への正当性を認める雰囲気のある一方、政治的ニュアンスも蔓延しています。人類は対立、強欲さ、難民を作り、そして鍵を握っています。Manser のコレクションは月並みなものへ変化を呼び起こします。彼の写真は多彩な物語を語ります。

ビルマの忘れ去られた友達 (Forgotten Friends from Burma) の上映に興味のある方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。

[refugeeweek@yahoo.co.uk](mailto:refugeeweek@yahoo.co.uk)

## 2つの Albert Schweitzer 博物館訪問の印象

平和博物館の中の 1 つのカテゴリーとして、ノーベル平和賞受賞者に因んで、もしくは受賞者自らによって立てられた博物館があります。

例えばアメリカには Jane Addams、Martin Luther King、Theodore Roosevelt 大統領、Woodrow Wilson 大統領、Jimmy Carter 大統領などに因んだ平和博物館や歴史博物館があります。

ドイツに程近い、東フランスの Alsace 地方にはノーベル平和賞受賞者のなかでも極めて興味深く、重要で、素晴らしい Albert Schweitzer 博士(1875-1965)に因んだ2つの博物館があります。博士は先ずバツハとオルガンの専門家として名を馳せ、後に神学者、哲学者(両方の分野で博士号を所有)として名声を浴びるようになりました。医学博士となった後、1913 年にはヨーロッパを離れ、最初にランバレネ、その後仏領赤道アフリカに渡り、そこでは何百平方マイルの範囲に及んでも医師のいない地域に病院を建てました。博士は 1952 年のノーベル平和賞の賞金を使い、仏領赤道アフリカとランバレネの両方にハンセン病患者の療養村をつくりました。博士は、その生涯を何千人のアフリカに医療を提供し、初めて「国境の無い医師」と呼ばれた人です。博士の活動資金の大半は複数の支援団体が世界各国の個人から集めた募金によって支えられ、そのうち幾つかの団体は、今なお残っています。

50 年前の 1957 年にオスロラジオで放送された博士

の核兵器の危険性についての演説は世界の注目を集め、翌年には、引き続き、核実験の恐ろしさについて警鐘を鳴らす博士の演説が放送されました。大胆且つ多忙な人生の後半に Schweitzer 博士が人類のみならず地球上の生命を脅かすこの問題について言及したのは必然的なことのように思われます。早いうちから博士は生命の大切さを痛感し、平和哲学の中心にあるべきで、そして今日の環境意識にも沿っている「命の尊厳」は彼の有名なモットーとなったのです。

絵のような町 Kaysersberg にある博士の生家や、博士が建てた Gunsbach 村の近くにある家には、博士の長く変化に富んだ人生を記録した興味深い品じなが保存されています。それらの家は、遠く離れた地で気の毒な貧困に苦しむ人を心配する博士を、マザーテレサと比較し、まるで聖人のように捉えている古い世代の人々の巡礼の場となっています。Albert Schweitzer 博士の崇高な人生や彼の書いたものは、現世代に刺激や勇気を与えるものであり、両方の博物館を訪問されることを強くお勧めします。Kaysersberg の博物館の横にある美しい公園や Gunsbach の家から眺められる丘も是非ご覧になってください。Gunsbach の丘は、博士の人生における重要な時期を浮かび上がらせる、村と丘を1kmに及んで抜ける Albert Schweitzer Footpath (小道) の一部で、印象的な引用句があります。

さらに詳しい情報については [www.schweitzer.org](http://www.schweitzer.org) と [www.ville-kaysersberg.fr](http://www.ville-kaysersberg.fr) をご参照ください。

Dr. Peter van den Dungen

Department of Peace Studies, University of Bradford  
Bradford BD7 1DP, UK

Tel: +44-1274-234177

Fax: +44-1274-235240

### 上海に従軍慰安婦博物館が開館

文: Xiao Zhen Hui Lin (チャイナデイリー 上海) Qi Wen (チャイナデイリー 広州)

中国発の慰安婦博物館が2007年7月6日(金)に上海師範大学内に開館されました。第2次世界大戦中に日本軍兵士に囲われていた性的奴隷の物語を語る所蔵品を見るために、公開週末には300人が訪れると予想されました。

オープニング当日は主賓として3人の元従軍慰安婦が陝西省、海南省、広西自治区から招かれ、オープニングセレモニーでは辛い経験を語りました。日本国上海領事館からも2人の領事が開館初日に訪れま

した。

来館者は元慰安婦の話を知ると同時に、当時に関連する48の展示パネルと80の展示品を見学することができました。

上海師範大学付属の中国慰安婦研究所所長で従軍慰安婦博物館を設立した Su Zhiliang は、「上海にあった日本人によって作られた世界初の慰安所の第一サロンから持ち出された富士山の木像は最も貴重な展示品の一つです。

他の展示物としては、元慰安婦が吹き込んだり書いたりした回想録、Lei Guiying が強制労働をさせられていた南京の慰安所を逃げ出したときに持っていった消毒剤、何箱ものコンドーム、そして日本兵の写真などがあります。

この博物館は世界で3つ目のものです。他の2つは東京とソウルにあります。

Su の研究によれば、約200,000人の慰安婦が中国国内に存在し、自身が慰安婦であったことを公表した内、たった47人しか存命していないということです。

オープニングセレモニーに出席した3人の慰安婦のうちの1人の陝西省から来た Wan Aihua (78) は「私は勇気を持って慰安婦であったことを公表した最初の1人ですが、それは私と私の姉妹のために補償金を受け取りたかったからです。」と言いました。

### 南京のドキュメンタリー

ドキュメンタリーフィルム「南京」が2007年7月5日(木)に広州で公開されました。

広州に拠点を置く Feiyang Cinema のディレクターである Yang Weibing によれば、公開当日にはアメリカ人のディレクターである Bill Guttentag が出席し、会場は満員だったとのこと。

この映画は広州中の映画館で上映されていて、ほとんどの場合は一日5回上映されています。

映画を見た会社員の Wu Jiemin によれば、公開初日の観客は大変興奮していたということです。また、彼女は「大変バランスの取れた映画で、世界がこの悲惨な出来事を理解するのはとてもいいことですね。」と語っていました。

(チャイナデイリー2007年7月7日2ページ目より引用)

### 「平和のための芸術運動」:アメリカ

2007年11月8日から2008年7月8日までニューヨークとインドにあるガンジー研究所の活動に敬意を表して、芸術家の国際団体が活動を開始しました。画家、写真家、宝飾品芸術家、彫刻家、作家、音楽家

などは、自分たちの作品を販売し、スナンダ・ガンジー(アルン・ガンジーの妻でありツシャー・ガンジーの母)を記念した学校をインドに造る計画を支持する予定です。オンラインの競売で百万ドル集めることを目指しています。詳細を知りたい方は、下記のウェブサイトを御覧下さい。

<http://www.kauaikeepsakes.com/artists4peace/>

Artists4Peace Main Campaign Site

<http://www.gandhiinstitute.net>

Gandhi Institute Website

<http://inbusinessforgood.blogspot.com>

In Business4Good Blog/Diary/History

Personal contact information:

Patrick Michaels

CEO

InBusiness4Good Enterprises

[Inbusiness4good@yahoo.com](mailto:Inbusiness4good@yahoo.com)

### キッズブリッジ寛容博物館:米国のニュージャージー大学

2006年1月キッズブリッジ子ども博物館ではニュージャージー大学に寛容博物館をつくりました。偏見と差別の問題に取り組み、多様性を理解し寛容な態度を身につけるような展示をしています。その対象は小学生です。2006年には1000人以上の子どもたち、小学校教育課程専攻の125人の学生たちなどがこの展示を見ました。学生は子どもたちに関わり、教育をおこないました。

連絡先は次のとおりです。

Lynne Azarchi

Executive Director

[lynnkidsbridge@aol.com](mailto:lynnkidsbridge@aol.com)

郵送先

P.O. Box 4561

Chambersburg Station

Trenton, NJ 08611

Tel : (609) 396-4300

Fax : (609) 581-0293

<http://www.kidsbridgemuseum.org/main/>

### デイトン国際平和博物館:アメリカ オハイオ州

デイトン国際平和博物館は、2005年10月14日に開館しました。2006年までに100人以上の人々が、ボランティア活動をしました。文化的教育的に地元だけでなく、国際的にも重要な役割を果たしています。

非暴力主義を重視した展示物、活動、取り組みを

通して、地元で、また国内で、さらに国際的に平和の文化創造に貢献しようとしています。

館内には、デイトン出身のドロシー・スタング(Sister Dorothy Stang)さんに関する展示があります。彼女は1966年からブラジル、アマゾンに住み始め、人生の半分をそこで過ごしました。カトリック教修道女として、アマゾンの森林や先住民を木材伐採者、牧場経営者、大豆の生産者から守ろうとして、2005年の2月12日に殺されました。彼女は、非暴力主義者でした。ブラジルではこれらの物を、環境を破壊しながら輸出しているのです。彼女は熱帯雨林の保護のために、先住民の運動を支えました。彼女に関する展示のちらしには、「私たちは、何がほしいのかではなく、何が必要なかを自問しなければなりません」という言葉が書かれていました。

DAYTON INTERNATIONAL PEACE MUSEUM :  
208 W. Monument Ave. Dayton, OH 45402 USA  
937-227-3223

<http://www.daytonpeacemuseum.org/index.html>



デイトン国際平和博物館

### キングセンター:アメリカ ジョージア州アトランタ

アメリカで正義、平等、平和を求めた非暴力主義運動の指導者であったマーティン・ルーサー・キング牧師を記念して、1968年にコレッタ・スコット・キングによって創られました。

年間に世界中から65万人以上の人びとが、キングセンターに来てキング牧師の人生や教えに関する展示を見たり、図書館、生まれた家などに行きます。そこを訪問できない人々がキング牧師の人生や考え、非暴力的な和解の方法や社会的変革について学ぶことができるように、本、ビデオ、映画、テレビ、CD、ウェブページなどを使っています。特にホームページでは、キング博士やその後の人々の努力を知ることができます。

The King Center

449 Auburn Avenue, NE, Atlanta, GA 30312  
Tel: (404) 526-8900  
information@thekingcenter.org  
<http://www.thekingcenter.org/tkc/index.asp>

### ジミー・カーター図書館・博物館

ジョージア州アトランタにあるジミー・カーター図書館・博物館にはカーター氏が大統領であった時期(1976 - 1981)の写真や歴史的な重要記事などがあります。

2007年12月22日からアラスカ南西部の国立公園における野生動物に関する写真展(Robert Glenn Ketchum 撮影)が2008年4月13日まで行われます。  
Jimmy Carter Library and Museum  
441 Freedom Parkway  
Atlanta, Georgia 30307-1498  
Telephone: 404-865-7131  
Fax: 404-865-7102  
Email: [carter.library@nara.gov](mailto:carter.library@nara.gov)  
<http://www.jimmycarterlibrary.gov/museum/>  
(With thanks to Dr. Peter van den Dungen)

### 子ども平和センター:アメリカ ジョージア

子どもたちが自分たちの生活を豊かにするために、紛争解決の技能を学ぶことができるような取り組みをしています。学校、教会、キャンプなどに持って行くことができるおもしろい展示物、芸術・工芸品、人形劇の人形、お話などを用意しています。子どもたちが暴力を使わないで問題を解決する方法を学ぶことができ、お互いに尊敬しあうことを学び、異なった文化の美しさがわかるように活動をしています。

Children's Peace Center: P.O. Box 379  
4831 Cove St Acworth, GA 30101  
Contact: Andria Melham (President)  
Phone: (770) 917-8815  
Fax: (770) 974-4602  
Website: <http://www.childrenspeacecenter.org>

### ライオンと子羊・平和芸術センター:アメリカ オハイオ州

ブラフトン大学にあるライオンと子羊・平和芸術センターは、特に子どもたちに焦点を当て、芸術と文学を通して平和と正義の研究、異文化理解、非暴力的紛争解決の促進を目指しています。

現在児童文学書が5600冊以上、参考書やカリキュラムのガイドブック1000冊以上、児童書のイラストなど

芸術作品が135点以上などがあります。  
The Lion and Lamb Peace Arts Center: Ohio  
Bluffton University: 1 University Drive  
Bluffton, Ohio 45817 USA  
419-358-3000 / 800-488-3257  
<http://www.bluffton.edu/lionlamb/>

### 刀を鋤に 平和センター・美術館:デトロイト

平和センターでは、デトロイトにある「平和と正義ネットワーク」の人びとと共に、アーリントンプロジェクトという取り組みをおこないました。オハイオ平和連合の人びとは、戦争の犠牲者、つまりイラクやアフガニスタンでなくなった兵士、何十万という市民の死者、アメリカ帰国後自殺をした兵士たちを追悼して、3600の墓石を作りました。

9月21日から26日までグランド・サーカス講演に置かれるでしょう。

(通信 *Harbinger*: Autumn 2007 より)

Swords into Plowshares Peace Center and Gallery  
<http://www.swordsintoplowsharesdetroit.org/index.htm>

\*\*\*\*\*

### 国内ネットワークのニュース

#### 太平洋戦史館:岩手

11月9日、政府派遣の遺骨収集チームが115名の遺骨と共に、西部ニューギニア(インドネシア共和国パプア州)から帰国しました。チームは、厚労省から2名、太平洋戦史館会長理事 岩淵宣輝ら3名の合計5名。115名という大きな数値は、戦史館の会員が自費で現地調査を重ね、遺体収容を働きかけた結果によるものです。

6月、成田を出発した第1回調査団の7名は、ビアク島マンドウ地区で20m×40mほどの地点から、放置されたままの遺体51名分と多くの遺品を掘り出し、この様子が新聞とTV全国放映されたことで、大きな反響を呼びました。7月には関空から9名の調査団が出発し前回の遺体発見の場所をさらに深く調査した結果、合計72体を確認しました。この様子は新聞、雑誌の報道だけでなく、大阪、京都、福井へ、メンバー手作りの写真展となって、戦後62年経過した今も遺体が放置されたままという、すさまじい姿を伝えました。戦後処

理の活動は始まったばかり、これからも続きます。

### 埼玉県平和資料館:東松山市

テーマ展Ⅲ「戦時埼玉の食卓」が企画展示室で2007年10月20日～12月26日の会期により開催されています。展示では、農業県だった埼玉県を中心に戦前から終戦直後にかけての食糧事情を検討し、埼玉の食生活についてその実態を紹介しています。展示場での「はじめに」の最後の部分で、「戦時下という悲惨な食糧事情の中を生き抜いた郷土埼玉の人々の食生活を振り返えるこの展示が戦争のもたらした悲惨さと平和の大切さを考える一助となれば幸いです。」と書いています。展示構成は、1.昭和初期の食卓(都市の食事、農業不況、農家の食事、栄養食配給所など)、2. 国家総動員そして食糧統制へ(節米、配給、菓子屋の休業など)、3. 戦局の悪化と食糧不足(食糧難、配給のひろがり、家庭菜園、ウサギ飼育奨励、食糧増産学徒勤労動員、郷土食の奨励)、4. 戦争の終わり(いっそうの食糧難、供出、買い出し)です。関連事業として、「戦時中のおやつを食べてみよう」が12月1日に講堂で開かれ、当時の雑誌に紹介されたレシピで作ったおやつを試食会がありました。展示リスト付きリーフレットを刊行しています。

ギャラリー展1「疎開児童の絵」が2007年9月15日～10月28日の会期で開かれました。会期終了後も、引き続き展示していました。

第1回戦争体験者との交流会が講堂で2007年8月15日に開かれました。戦争体験者との交流会は戦争体験者との交流をとおして、戦争の悲惨さと平和の尊さを考えるものです。

第2回戦争体験者との交流会が講堂で2007年11月10日に開かれ、三浦嘉子さんが「満州からの引揚体験」を話しました。

第1回平和朗読会が講堂で2007年8月4日に開かれました。平和朗読会は戦争や平和をテーマとした文学作品の朗読を生演奏のBGMと共に聴くものです。

第2回平和朗読会が講堂で2007年11月17日に開かれ、川越市内の朗読グループ「みなみ・オツベル・かがやき」による作品の朗読と「花」の全員合唱がありました。

2007年11月14日に、映画会「象のいない動物園」(アニメ)が開かれました。この映画は、戦時下、爆撃により動物園から逃げ出すことを防ぐために動物たち殺されてしまったが、戦後、この事件を知った子どもたちの願いで象が再来するまでの物語です。

常設展の年表で、1937年12月13日の南京事件に

ついて、写真などに張り紙を貼っていましたが、このほどこれをやめ、文章を訂正し、写真も詳しい説明をつけて復活しました。文章は「日本軍南京占領(「南京事件」「南京大虐殺」)」で、写真の新たな説明は、「南京占領から2週間ほど後の揚子江付近『私の従軍中国戦線(村瀬守保写真集)』よりこの写真は、当時、輸送部隊の兵士であった撮影者(後に埼玉県居住・故人)が、占領の2週間ほど後に南京に入り、下関埠頭で見た場景を撮影したものです。」となっています。また、1991年の従軍慰安婦問題の文章は「戦時中の「慰安婦」問題など日本の戦争責任論議多発」と変わりました。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

### 丸木美術館:埼玉・東松山市

2007年度第2回企画展「今日の反核反戦」が2007年9月15日～10月30日の会期で開催されました。銀座・地球堂ギャラリーで20年以上続いた〈戦争展〉を、丸木美術館に移して再編した〈今日の反戦展〉の3回目、今回から改称したものです。

2007年度第3回企画展「Japan Visual Journalist Association 日本の報道写真家たち—世界の戦場から—」が2007年11月4日～12月15日の会期で開催されています。日本ビジュアル・ジャーナリスト協会(JVJA)の会員たちが、「世界の戦場で」で見続けてきた人間の写真展です。

2007年8月6日に「被爆62年 丸木美術館 ひろしま忌」が、ボランティア・出演者を含め約200人の参加で開かれました。

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

<http://www.aya.or.jp/~marukimsn/top/kikaku.htm>

### 蕨市立歴史民俗資料館:埼玉

夏の企画展「第18回平和祈念展 15年戦争の記憶 戦中・戦後の暮らし」が2007年8月1日～31日の会期で開催されました。悲劇を繰り返さないために、戦争という事実と記憶を次世代に伝えるために開かれたものです。出征、総動員、空襲、代用品、日本国憲法などについて展示していました。トピック展示「旅も戦争一色」では、駅弁の包み紙やバス・電車の乗車券を展示していましたが、その主題は、国民精神総動員、紀元2600年、三国同盟、オリピック、漢口陥落、ヒッラー・ユンゲルトなどが取り上げられていました。解説のリーフレットを発行しています。

Tel:048-432-2477

<http://www.city.warabi.saitama.jp/rekimin/index.htm>

### ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館:埼玉

第22回特別展「東京第1陸軍造兵廠」が2007年9月29日～11月25日の会期で開催されました。上福岡にあった陸軍造兵廠川越製造所について、資料館は1983年から聞き取り調査、実物資料の収集などを進め、調査報告書を刊行し、ミニ企画展などを開催してきました。今回の特別展はこれら陸軍造兵廠川越製造所の調査を集大成するもので、実物資料300点や写真資料を展示しました。あわせて、東京の十条、滝野川、尾久などがあった東京第1陸軍造兵廠の系列の施設についての資料も展示していました。図録も刊行しています。

記念講演会が10月14日に開かれ、市文化財保護審議会委員の大柴英雄さんが、「東京第1陸軍造兵廠の実態に迫る」と題して話しました。また、歴史学習講座として、10月21日に市郷土文化研究会会長の内田喜代治さんが「63年前の造兵廠川越製造所体験を語る」を、10月28日には『風船爆弾』の著者、吉野興一さんが「太平洋を渡った風船爆弾」を、11月4日には滝野川工場の学徒だった藤代喜代子さんと川越製造所の学徒だった細井栄五郎さんが「東京と埼玉の学徒動員を語る」を、11月18日には資料館館長の高木文夫さんが「造兵廠大井倉庫と川越製造所長神田大佐」を、それぞれ話しました。

Tel:049-261-6065

<http://www.city.fujimino.saitama.jp/>

### 東京大空襲・戦災資料センター:東京・江東区

センターと戦争災害研究室の主催で、シンポジウム「無差別爆撃の源流 ゲルニカ・中国都市爆撃を検証する」が、2007年10月20日に、日本大学歯学部第1講堂で開かれました。最初に、司会をつとめた、戦争災害研究室室長の吉田裕さんから趣旨説明がありました。ついで、茨城大学名誉教授の荒井信一さんが「ゲルニカ―無差別爆撃のルーツ」を、茨城大学教授の深沢安博さんが「リーフ戦争からスペイン内戦へ―生存破壊のための空爆とその衝撃・記憶・謝罪」を、戦争災害研究室研究員の山本唯人さんが「『アジア・太平洋地域における主な都市空襲』地図の作成と常德・成都・重慶現地調査報告」を、都留文科大学教授の伊香俊哉さんが「『重慶大爆撃』研究及び資料状況について」を、それぞれ報告しました。その後、活発な討論がありました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www9.ocn.ne.jp/~sensai/>

### 昭和のくらし博物館:東京・大田区

特別展「小泉家に残る戦争」展が博物館の談話室で2007年8月1日～9月2日の会期で、開催されました。戦争の傷跡はこんなにも長く、大きく残ることを忘れないように、「戦争はいけない」と言いつづけるために開館以来毎年8月に「小泉家に残る戦争展」を開催しています。絵日記・千人針・代用品・寄せ書き・もんぺなど、家庭に残る戦争の記憶を展示していました。

Tel.&Fax:03-3750-1808

<http://www.digitalium.co.jp/showa/index.html>

### 福生市郷土資料室:東京

特別展示「近代戦争のあゆみと戦時下の福生―平和のための戦争資料展―」が2007年8月4日～10月8日の会期で開催されました。福生近代の歴史は、戦争の歴史と密接な関わりがあり、日清戦争から太平洋戦争までの約50年間は、まさに戦争の歴史でした。戦後60年以上がたった現在、これらの記憶は薄れつつありますが、今回の特別展示は、郷土資料室が収集してきた福生に関わる近代戦争の資料を一堂に展示し、近代戦争の歴史を振り返るものでした。戦時中の子供たちの遊び道具や学校での学習の様子、そして戦時下での市民生活を伝えるさまざまな資料から近代戦争と福生の歴史を見つめなおし、もう一度現在の尊い平和について再認識しようという趣旨で開かれたものです。図録を刊行しています。

記念講演会が9月8日に福生市立図書館2階学習室で開かれ、東京大空襲・戦災資料センターの山辺昌彦さんが「東京・多摩の戦災を考える」と題して話しました。

Tel:0425-53-3111

<http://www.city.fussa.tokyo.jp/town/m005/32iopi000004uv7.html>

### 東大和市立郷土資料館:東京

ロビー展「多摩の戦跡写真パネル展」が1階エントランスロビーで、2007年8月3日～31日の会期で開催されました。東大和は1945年2月と4月に大きな爆撃を受けました。市は攻撃目標だった軍需工場の建物に残る爆撃の痕跡もそのままにして、戦争を伝える文化財として保存してきました。展示会は多摩に残る爆撃による被害や軍事施設などの戦争傷跡を写真パネルで紹介するもので、身近にあった戦争を振り返り、平和について考える趣旨で開かれたものです。

Tel:042-567-4800

<http://www.e-yamato.or.jp/city/museum/>

### 明治大学史資料センター:東京・千代田区

『明治大学史資料センター事務室報告 第28集 大学史活動』が2007年3月31日付で刊行されました。第1回明治大学大学史資料センター企画展「明大生と学徒兵」の特集で、企画展の記録として、開催事情、図録、展示パンフレット、展示見学の基礎知識、ポスター、展示資料のうちの「慰問演芸隊」関係資料の翻刻などが収録されています。また、京都大学大学文書館の西山伸さんら、他大学の大学史関係者で「戦争と大学」に関係する展示を担当された方たちの「明大生と学徒兵」の展示評も掲載されています。

Tel:03-3296-4448 Fax:03-3296-4365

<http://www.meiji.ac.jp/museum/>

### 岐阜市平和資料室

企画展「学校もたいへんだった一戦火の中学生日記」—子どもたちに伝える平和のための資料展—が、2007年7月22日～8月5日の会期で開催されました。展示は、1. 戦時中の学校はきびしかった、2. 戦火が学校にもやってきた、3. 戦後、少年たちのとまどいと苦しみ、の3部構成からなっています。それぞれの学校生活を、少年たちの心の動きを追いながら、手作りのマンガパネル約30枚と、当時の資料約70点で再現していました。戦時中については、4人の生徒の日記を中心資料にして、「軍事教練」「勤労動員」「学徒出陣」など、少年たちは勉強をやめて、大人と同じように働き、また兵士となって戦場に向かった様子を展示していました。特別展に協賛して、半田空襲と戦争を記録する会の佐藤明夫さんの講演会「少年・少女たちの戦争～勤労動員～」が2007年7月27日にハートフルスクエアGの2階中研修室で開かれました。

Tel:058-268-1050

### 静岡平和資料センター

企画展「悪魔の兵器—『対人地雷・クラスター爆弾・劣化ウラン弾』展」が2007年11月16日～2008年3月末の会期で開催されています。これは、対人地雷・クラスター爆弾・劣化ウラン弾の被害実態とそれらを廃絶する取り組みを紹介するものです。

Tel:054-247-9641 Fax:054-247-9641

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

### 三重県立斎宮歴史博物館:明和町

企画展「地域に残る戦争展」が特別展示室で2007年8月1日～31日の会期により開催されました。太平洋戦争下、斎宮歴史博物館のある明和町には、馬之上に陸軍通信第128部隊が置かれ、本郷には射撃訓

練場がありました。この企画展は、地元明和町に残されている資料を中心に、日清・日露戦争、そして日中戦争から太平洋戦争までの資料や、当時の生活を伝える資料を展示していました。出土品を除いてあと全部が、館蔵品ではなく、個人などから借用した資料です。身近に残る戦争のあとに触れ、平和の大切さを感じてもらふ趣旨で開かれたものです。三重県立の博物館としても初めて戦争展示で、博物館の立地している地域に密着した展示を重視してきて、開催することになったものです。展示構成は序章 防空と空襲、1. 好景気と観光、2. 大陸へ、都市へ、3. 15年戦争へ、4. 母と子で、他に陸軍航空通信隊関係資料や戦争遺跡の写真も展示しています。このように今回は総合的な展示でした。

Tel:0596-52-3800 Fax:0596-52-3724

<http://www.pref.mie.jp/saiku/HP/index.htm>

### 桑名市博物館:三重

学習支援展示「戦時下の暮らし」が1階の企画展示室で2007年6月27日～9月9日の会期により開催されました。開催趣旨は、市内に戦争の爪痕を残す場所がなく、展示会を平和の尊さを学ぶ場にするためです。軍装品、焼夷弾、罹災証明書、債券、国債、記章、感謝状、衣料切符、ポスター、写真週報などを展示していました。出品リスト付の解説パンフレットを作成しています。学習支援展示は2004年度から開催していますが、2005、2006年度は戦争の時期の資料も展示しましたが、戦争をテーマにしたのは今年が初めてです。

Tel/Fax:0594-21-3171

### 近江日野商人館:滋賀

2007年度〈特別企画〉第20回太平洋戦争展が2007年8月1日～30日の会期により開催されました。2007年4月から館長が替わり、今年は、絵や人形などによる再現展示はやめ、原資料の展示に絞っています。物資不足で変化した教科書や、学用品・配給品をはじめ、空襲に備えた防空訓練・灯火管制・防空壕への避難など、当時の様子を物や写真で紹介し、戦争が子どもたちまで大きな犠牲を強いたことを伝えています。特に、疎開学童のお礼の作文集「なつかしき東桜谷村の皆さまへ」、疎開受入校の学校日誌・東桜谷国民学校の校中日誌にみる疎開指導の記録、「町代日記」の1940年の記録に見る戦時体制の強化についても展示しています。また、青い目の人形や、警報告知板、警報発令伝達書、警報受領書なども展示しています。

Tel:0748-52-0007 Fax:0748-52-0172  
<http://www.town.hino.shiga.jp/hino-s/>

### 立命館大学国際平和ミュージアム:京都市

特別展「世界報道写真展 2007」が、滋賀会場では、立命館大学 びわこ・くさつキャンパス エポックホールで、2007年10月11日～21日の会期により、京都会場では、立命館大学国際平和ミュージアム1階中野記念ホールで、10月23日～11月11日の会期により、それぞれ開催されました。世界報道写真展は、世界報道写真財団が毎年開催しているコンテストの入賞作品で構成した写真展で、今年で50回目を迎えました。関連して、ジャーナリストの江川紹子さんの講演会「報道の真贋をどう読み解くか？」が中野記念ホールで10月12日に、対談「科学者と批判精神ー良心・倫理・モラルー」が江川紹子さんと安斎育郎国際平和ミュージアム館長により10月13日にびわこ・くさつキャンパス・コラーニングハウス I 1階 C107で、それぞれおこなわれました。

特別展「飯塚国雄絵画展」が1階中野記念ホールで、11月15日～12月15日の会期により開催されました。飯塚国雄は、ニューヨークを拠点に活躍する画家です。1971年、父と再会し、父親が被爆者であることを初めて知らされます。それをきっかけとして「炎・ナガサキ」を制作しました。以降、飯塚は、内戦、虐殺、貧困、飢餓、難民をテーマにした作品を作り続けています。この絵画展は、戦争の記憶を風化させることなく常によみがえらせつつ、鎮魂と和解、そして共存を願って開催され、群像画からスケッチ画まで、約25点が展示されました。記念シンポジウムが、飯塚国雄さん、歌手の横井久美子、安斎育郎さんの報告により、11月17日に1階ロビーで開催され、横井久美子さんによるミニコンサートもおこなわれました。

ミニ企画展「ニューギニア戦線 玉砕の島写真展」が2007年10月13日～21日の会期により、1階の中野記念ホールで開催されました。これは、遺族ら8人が参加した民間の慰霊団が2007年7月に、1万人以上の旧日本兵が戦死したニューギニア島北西のピアク島のマンドウ付近で14体の死体を確認した時に撮影した、折り重なった頭骨や鉄カブトなどの遺留品、日本軍が立てこもり凄惨な戦闘があった西洞窟などの写真35枚を展示したものです。

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899  
<http://www.ritsumeimei.ac.jp>

### 向日市文化資料館:京都

’07 夏の文化資料館ラウンジ展示「くらしのなかの戦

争 出征兵士と子どもたち」が2007年8月11日～9月30日の会期で開催されました。これは、毎夏、市民の方から寄贈された戦争に関する資料を展示し、身近な地域の資料から、戦争と平和について考えてもらうものです。今年の主な展示品は、皇軍慰問絵葉書、兵士からの手紙、「戦場に送る子どもの文」代表作品賞状、乙訓郡全学童文学おとくに、などです。

Tel:075-931-1182 Fax:075-931-1121  
<http://www.city.muko.kyoto.jp/shisetsu/shiryokan.html>

### 大山崎町歴史資料館:京都

小企画展「第9回平和のいしずえ」が2007年8月7日～26日の会期で開催されました。これは戦争前後の資料を展示して、平和の尊さを考えるものです。今年には戦前、戦中の近畿地方の鉄道の絵葉書などを展示しました。

Tel:075-952-6288  
<http://www.kiis.or.jp/rekishi/kyoto/yamazaki2.html>

### 大阪国際平和センター(ピースおおさか)

特別展「せんそうは なぜおこるの?『核戦争を考える2つの童話』から現代の戦争と兵器を考える」が1階の特別展示室で2007年9月27日～11月18日の会期で開催されました。この特別展では、「核戦争を考える2つの童話」(はやしたかし著)をもとに、戦争を惹き起こす「人間の恐ろしさや愚かさ」を問いかけ、「人間はどうして戦争をするんだろう?」という疑問をもう一度問い直すものでした。あわせて小型武器の「実態」、無理やり銃を持たされる子ども兵士の「苦悩」、そして核兵器のもたらす「惨状」、最後に人の姿が見えない現代兵器の「恐怖」を紹介していました。そして、恒久の平和を築くために、私たちには今何ができるのか、また何をしなければならないのか、をともに考える機会でもありました。展示内容は、1.「核戦争を考える2つの童話(「逃げた王様」・「刀を切る刀」)」(パネル)約40点、2. 氾濫する小型武器(写真パネル)約30点、3. 子ども兵士(写真パネル・カラシニコフ銃模型等)約30点、4. ナガサキ・ヒロシマ(写真パネル)約15点、5. 現代兵器～ミサイル・爆弾～(写真パネル、巡航ミサイルの実物大パネル等)約20点、でした。

関連して、講演会「ヒロシマから世界へー“戦争文化”から“平和文化”の構築へ」が2007年11月3日に1階の講堂で開催され、財団法人広島平和文化センター理事長のステイブン・ロイド・リーパーさんが話しました。

特別展「パキスタン北部の子どもたちからのメッセー

ジ～パキスタン地震の被災地から、～アフガニスタン難民キャンプから」が1階の特別展示室で2007年11月27日～2008年1月27日の会期で開催されています。この特別展はパネル展(約130点)ですが、平和な社会を揺るがしかねない自然災害の恐ろしさや多くの人びとが犠牲を強いられる紛争問題について、改めて認識するとともに、厳しい状況の中でもたくましく生きる子どもたちからのメッセージを感じ取りながら今何をすべきか、何をしなければならぬのか、平和の大切さについて考える機会とするものです。展示内容は、1. 毎日新聞東京本社編集局社会部(前写真部)記者、佐藤賢二郎さんがパキスタン地震の被害の大きい山間地域を20日間にわたり取材し、被災した子どもたちに焦点をあてて撮った作品(約30点)、2. ガールスカウト日本連盟が1994年から10年間にわたり、「ピースバック」(学校で使う文具)を直接現地に届けたことに対し、アフガニスタン難民の子どもたちが感謝の気持ちで描いた絵画など(約100点)です。

「8.15 終戦の日 平和祈念事業」として、ちばてつや講演会「私のマンガと戦争体験—『満州』からの引揚げと平和への想い」が1階の講堂で2007年8月12日に開かれました。

「12.8開戦の日 平和祈念事業」として、講演会「着物柄にみる戦争～日清・日露、そして太平洋戦争まで～」が2007年12月8日に1階の講堂で開かれ、北海道東海大学教授の乾淑子さんが講演しました。

第28回「21世紀の平和を考えるセミナー」映画会「地球の声が聞こえますか」—大自然と響き合う映画『地球交響曲第六番』が、2007年11月18日に1階の講堂で開催されました。

ピースおおさか「ウイークエンド・シネマ」—戦争と平和についての映画会が、1階の講堂で開催され、2007年8月18日には、「はだしのゲン」が、19日には「はだしのゲン」PART2とPART3が、25日と26日には「火垂るの墓」が、それぞれ上映されました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://mic.e-osaka.ne.jp/peace/>

### 堺市立平和と人権資料館:大阪

特別展「絵画が語る平和への願い～大田健一展～」が教育文化センター(ソフィア堺)内図書館棟1階小ギャラリーで2007年11月1日～11日の会期により開催されました。

大田健一さんは、1940年から中国や東南アジアに従軍し、最前線の戦争の悲惨さも体験しました。厳しい戦場にあっても絵画への望みから戦場のさまざまな光景をスケッチしました。戦後、これらスケッチをもとに

「当時の記憶を残したい」「伝えたい」という思いから戦争体験絵画を描きましたが、これら絵画からは「平和への願い」「いのちの尊さ」が強く伝わってきます。大阪国際平和センターの協力を得て、大田健一さんが描いた戦争最前線の19点の絵画を通して、一人ひとりが「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」「いのちの大切さ」について考える機会とするために開くものです。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159

[http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/\\_jinken/](http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_jinken/)

### 吹田市平和祈念資料室:大阪

企画展「子どもたちの『戦争』～絵日記でつづる学童疎開～絵手紙が伝える戦争」が2007年8月21日～9月2日の会期で開催されました。これは平和祈念プロジェクト21と大阪国際平和センターの協力により、戦時中の子どもたちによって書かれた疎開中の絵日記作品と学童疎開をテーマにした写真パネルを展示したものです。

Tel:06-6387-2593

<http://www.city.suita.osaka.jp/kobo/jinken/page/000338.shtml>

### 大阪人権博物館

特集展示「日本の歴史と差別問題」が2007年7月24日～2008年3月30日の会期で開催されています。この展示では、古代、中世、近代、現代と5つの時代区分の中で、民族、性、障害者、被差別部落などのテーマ別にパネルを作成して、その時代にどのような差別問題があったのか、それらが現代の差別問題とどのようにつながっているのかを考えるようにしています。さらにアジアや世界とのつながりから、日本の差別問題の背景を考える展示にもなっています。

Tel:06-6561-5891 Fax:06-6561-5995

<http://www.liberty.or.jp/>

### 姫路市平和資料館:兵庫

秋季企画展「『学び』を奪った戦争～学徒勤労動員の日々～」が2階展示室で2007年10月5日～12月24日の会期により開催されています。太平洋戦争の拡大とともに不足していった労働力を補うため、多くの学生、生徒たちが軍需工場等に動員されました。学びの場が事実上、機能を停止していった状況を、勤労動員中に空襲や原爆で亡くなった学徒の遺品を中心に当時の写真や現物資料などで紹介しています。これら展示を通して、「戦争」の愚かさ、悲惨さと現代の「平和」の尊さについて考えるとしています。

展示構成は、1.「学徒勤労動員—北海道、東京、

愛知 一」では、製鉄所、航空機メーカーなどに動員され、勤務中の事故や工場への空爆で死亡した学徒たちを中心に当時の状況を紹介しています。2.「学徒勤労働員と大阪大空襲」では、大阪大空襲の犠牲となった動員学徒たちを中心に当時の状況を紹介しています。3.「学徒勤労働員と広島原爆」では、広島において、建物疎開に動員されていた学徒が多数被爆した状況を紹介しています。4.「姫路における学徒勤労働員」では、姫路における学徒勤労働員の状況を紹介しています。5.「学徒勤労働員の証言」では、戦争末期、動員された学徒の日記などを紹介しています。1～3の資料は、若人の広場から立命館大学国際平和ミュージアムに寄贈された資料です。

関連して、11月3日に空襲体験者・黒田権大さんによる講演会が開かれました。

「平和を共に歌う 合唱コンサート」が2007年8月5日に開かれ、パルナソス合唱団、姫路市児童合唱団による合唱がありました。

市内の被爆体験者による体験講話が2007年8月19日に開かれました。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasiroyo/>

### 広島平和記念資料館

2007年度第1回企画展「海外からの支援 被爆者への援助と込められた再建への願い」が東館地下1階の展示室で、2006年7月25日～2007年10月31日の会期により開催されました。展示構成は、はじめに、海外へ伝えられる惨状、廃虚での救援活動、苦しい生活に耐える、広島に寄せられたさまざまな援助 1 海外へ広がる 被爆体験、広島に寄せられたさまざまな援助 2 届けられる救援物資、広島に寄せられたさまざまな援助 3 海外移民からの援助、広島に寄せられたさまざまな援助 4 精神養子運動、広島に寄せられたさまざまな援助 5 「広島の家」の建設、支援の広がり 1 立ち上がる人びと、支援の広がり 2 被爆した女性たちの治療、支援の広がり 3 広島 憩いの家、支援の軌跡、おわりに です。

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

### 福山市人権平和資料館:広島

企画展「福山空襲と戦時下の暮らし」が2007年6月27日～8月31日の会期で開催されました。常設展に資料や写真を補充し、社会科教科書と関連させた内容のものでした。

企画展「SAORI 平和を紡ぐ 世界はひとつ いのち

と感性のシンフォニー」が2007年9月6日～11月18日の会期で開催されました。世界の「さをり織り」作家の作品にメッセージを添えて、活動の様子を紹介する写真とともに展示しました。期間中「さをり」織り体験が、第1回が9月6日～8日に、第2回が10月26日～28日に実施されました。関連企画として、「チョコットおしゃれなコンサート」が2007年11月11日に開催され、フルート演奏とお話がありました。

企画展「人権・平和」フォト市民作品展 が、2007年11月20日～12月24日の会期で開催されました。何気ない日常生活の中で、一人ひとりの人権が大切にされ、心豊かに希望をもって生きている瞬間や、平和な社会の尊さを表現した写真を、広く市民から募集し展示するものです。

Tel:084-924-6789 Fax:084-924-6850

[http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinkenheiwas\\_hiryokan/](http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinkenheiwas_hiryokan/)

### 高松市市民文化センター平和記念室:香川

平和記念室企画展が高松市市民文化センター1階ロビーで2007年8月22日～9月2日の会期で開催されました。市民から寄贈された収蔵品とともに、沖縄戦写真パネルも展示されました。

第17回高松市戦争遺品展が高松市役所1階市民ホールで2007年7月30日～8月3日の会期により開催され、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え、平和を願う市民の心をつたえるために、市民から最近寄贈された資料や、高松空襲、戦時中の女性に関する資料などが展示されました。

高松戦災・原爆写真展が高松市役所1階市民ホールで2007年8月6日～10日の会期により、高松市平和を願う市民団体協議会事業として、戦争の悲惨さと平和の尊さを再確認するために開催され、原爆の悲惨さを伝える写真、絵画、遺品などが展示されました。

教職員のための平和教育講演会が高松市市民文化センター3階第1集会室で2007年8月28日に開かれ、「高松市戦争体験談を語り継ぐ語り部の会」の語り部の中島貞夫さんが「高松市空襲体験談」を、平和記念室担当の元市民文化センター嘱託職員の中島省三さんが「平和教育推進のための教師の役割について」を話し、平和記念室の嘱託職員の中島美智子さんが平和記念室企画展の展示説明をしました。

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7724

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/1794.html>

## 自由民権記念館:高知

11月2日から12月2日まで三大事件建白運動120周年記念として土佐自由民権運動群像展が開催されました。「三大事件建白運動」とは、簡単にいえば大きく3つにしばられた課題を、建白書というかたちで政府に要求し提出していく運動をいいます。そしてこの運動は、各種租税の負担に苦しみ、さらに言論・集会の自由が抑圧された状況下、ノルマントン号事件勃発による不平等条約改正世論の高揚、条約改正問題をめぐる政府内部の分裂等さまざまな要因を背景として、1887年9月から12月にかけて、①租税の軽減②言論・集会の自由③外交失策の挽回の3つに案件を掲げた民権期最大規模の反政府闘争に発展しました。「三大事件建白運動」は、高知県関係の旧自由党勢力が主導し、全国の建白運動を活性化させました。今回の展示は、民権家たちにスポットを当てていくことも大きな目的のひとつです。

(「自由のともしび」Vol.61 2007 Oct より)

Tel: 088-831-3336 Fax: 088-831-3306

<http://www.minken.city.kochi.kochi.jp/>

## 薩摩川内市川内歴史資料館:鹿児島

ミニ企画展「終戦記念展」2007年8月7日～26日の会期で開催されました。

Tel:0996-20-2344 Fax:0996-20-2848

<http://rekishi.sendai-net.jp/index2.htm>

## 沖縄県平和祈念資料館

第8回特別企画展「沖縄戦と戦争遺跡～戦世の真実を伝えるために～」が企画展示室で2007年10月10日～12月16日の会期で開催されました。その後、分館である八重山平和祈念資料館で2008年1月16日～2月24日の会期で開催されます。3か月以上も「鉄の暴風」が沖縄戦全土を襲った悲惨な地上戦の痕跡は、戦争遺跡として今なおその傷跡をとどめています。失われていく戦争の記憶を伝え、平和を希求する願いから、県内に残された代表的な戦争遺跡を紹介するものです。

特別企画展関連企画「沖縄戦講座」が平和祈念ホールで2007年11月4日に開かれ、沖縄国際大学教授の吉浜忍さんが「沖縄戦と戦争遺跡－南風原陸軍病院壕の保存・公開をとおして－」と題して話しました。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp>

## 出版物

『マーシャル諸島ハンドブック  
—小さな島国の文化・歴史・政治』竹峰誠一郎、  
中原聖乃著、凱風社、2007

『きずきあう平和と非暴力の文化』平和の文化を  
きずく会編、平和文化、2007

IPSHU English Research Report Series No. 21

The Policy of Ethnic Enclosure : A study of the Role  
of Language in Ethnic Rivalries in the Caucasus by  
Vladimir Rouvinski

Oct. 2007/12/09 Institute for Peace Science, Hiroshima  
University (英文)

Militarizing Sri Lanka : Popular Culture,  
Memory and Narrative in the Armed Conflict by  
Neloufer De Mel. Sage : 2007

お願い

2007年度会費などを未納の方には、請求と振替用紙を同封しております。年会費2000円を納入してください。

おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解を、必ずしも示すものではありません。